山武市 まちづくり報告書

~第2次山武市総合計画の進行管理~

海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武



令和元年度実績

1. 山武市まちづくり報告書の基本的考え方	
(1)山武市まちづくり 報告書 とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ĺ
(2)総合計画と行政評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ĺ
(3)行政評価による総合計画の進行管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. まちの経営動向	
(1)人口の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	}
(2)歳出決算額の推移(普通会計)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	}
3. 総合計画の評価概要(令和元年度)	
(1)まちづくりの進捗状況(成果指標値の推移)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(2)政策別のまちづくりの進捗状況(成果指標値の推移)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4. 学識経験を有する者の知見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
5. 総合計画の体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ł
6. 施策の進み具合の報告	
(1)評価結果の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	;
(2)施策・基本事業評価結果	
1 暮らしを支える快適なまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
2 住みやすい環境と安全なまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ĺ
3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり・・・・・・・・・・・55	3
4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・)
6 市民と行政が協働してつくるまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・107	7

1. 山武市まちづくり報告書の基本的考え方

(1) 山武市まちづくり報告書とは

「第2次山武市総合計画(令和元~4年度)」は、4年後の山武市のめざす姿を定めたまちづくりの指針となるものです。(図①参照)

この総合計画では、分野別にめざす姿(目標)を設定しており、定期的にその成果(数値)を把握することで、本市のまちづくりがどの程度達成されたかを評価しています。

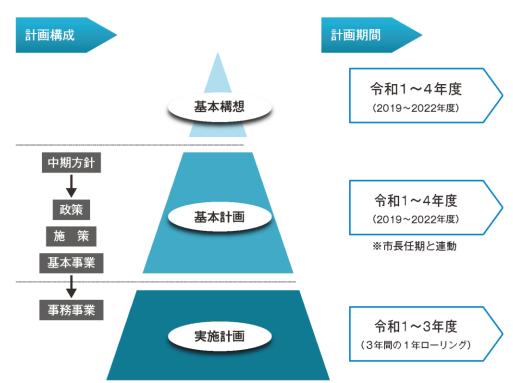
この「まちづくり報告書」は、現在までのまちづくりの取組状況(目標の推進状況、達成状況)をまとめ、みなさまにお知らせするものです。

(2)総合計画と行政評価

第2次山武市総合計画では、基本構想は山武市のまちづくりの普遍的な方向性を示しています。また、 基本構想の状況を示すまちづくり指標を設定し、基本計画終了時に確認を行うこととしています。

そのため、基本計画に6つの政策を掲げ、それぞれの政策ごとに取組の方針を定めています。6つの政策の下には、24の「施策」と108の「基本事業」が位置付けられ、さらに「基本事業」を実現する最も具体的な手段としての「事務事業」があり、総合計画の体系を構築しています。(図①参照)

図① 総合計画の体系



また、取組を進めていく中で、ヒト、モノ、カネといった限られた経営資源を有効に活用するとともに、みなさまに分かりやすい行財政運営を行うひとつの方策として、本市では「行政評価」の考え方を導入しています。

(3) 行政評価による総合計画の進行管理

山武市では総合計画の進行管理のために、Plan (計画)→Do (実行)→Check (評価)→Act (改善)のサイクルを活用した行政評価の考え方を取り入れ、目標年次に向けた総合計画の進行管理を行い、成果の向上を図ります。(図②参照)

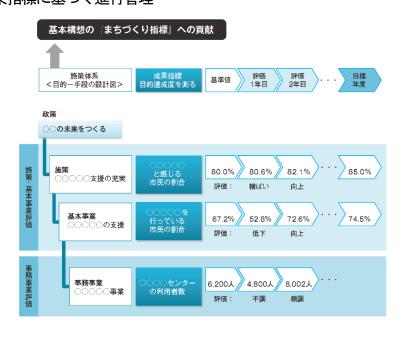
行政評価の考え方を取り入れた第2次山武市総合計画では、「施策」と「基本事業」にそれぞれ「めざす姿」を掲げ、その「めざす姿」の達成度を数値で表すモノサシとして「成果指標」を設定し、計画の最終年次である令和4年度に、達成すべき目標値を定めています。

総合計画の進行管理を行ううえで、毎年「施策」、「基本事業」の成果を評価し、目標に向かって遅れが出ている項目については、現状を把握し、なぜ数値が伸びていないのかというような原因を分析し、事業の見直しを検討、実施することで目標の達成を目指します。(図③参照)

図② 総合計画の進行管理



図③ 成果指標に基づく進行管理



2. まちの経営動向

(1) 人口の推移

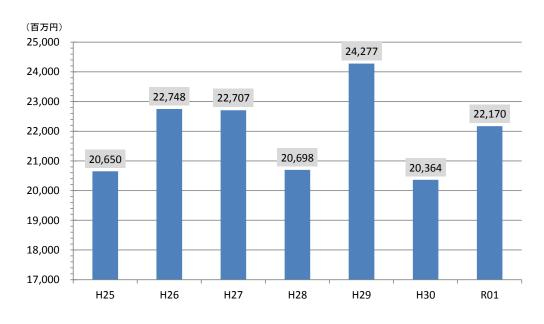
人口は減少傾向が続いています。これは、主に若い世代が流出する「社会減」と出生率の低下による「自然減」が大きく影響しています。なお、山武市の高齢化率は令和元年度の33.8%から令和2年度は34.2%と増加しています。一方で世帯数は、増加傾向が続いていることから核家族化等が進んでいるものと推察できます。



※住基法改正により25年度から外国人も含みます。

(2) 歳出決算額の推移(普通会計)

令和元年度の歳出については、昨年度と比較して18億6百万円増の221億7千万円となりました。 主な事業内容は、まつおこども園移転整備の実施、農村環境改善センター施設改修の実施となっていま す。



3. 総合計画の評価概要(令和元年度)

(1) まちづくりの進捗状況(成果指標値の推移)

山武市総合計画で設定された247の成果指標の進捗状況は下記のとおりとなっています。

① 施策の成果指標動向【24施策40指標】

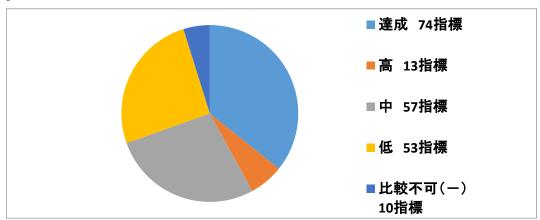
24施策の成果として設定されている 40の成果指標について、成果が向上し、めざそう値に対して概ね順調な成果を上げていると評価したもの(評価区分「達成」「高」)は 20指標(50.0%)となっています。維持・横ばいのもの(評価区分「中」)が 5指標(12.5%)、計画開始当初よりも低下したもの(評価区分「低」)が 14指標(35.0%)となっています。



② 基本事業の成果指標動向【108基本事業207指標】

24施策の成果(前述の40成果指標)を向上させるための手段として、施策体系に位置付づけられている108の基本事業の成果を示すものとして207の成果指標が設定されています。

それらの指標の動向として、成果が向上し、めざそう値に対して概ね順調な成果を上げていると評価したもの(評価区分「達成」「高」)が87指標(42.0%)、維持・横ばいのもの(評価区分「中」)が57指標(27.5%)、計画当初よりも低下したもの(評価区分「低」)が53指標(25.6%) となっています。



※比較不可・・・主に国、県等の統計データの実施年度が隔年や5年毎等で成果指標の実績値を毎年把握することができず、 令和元年度の評価として進捗を検討できないものを指します。

(2) 政策別のまちづくりの進捗状況(成果指標値の推移)

① 施策の成果指標動向【24施策40指標】

	成果指標の動向					en en (archie IV large) VVV likelar			
6つの政策	達成	高	中	低	_	□目標達成、概ね順調な主な指標 ■維持・横ばい、計画開始当初より低下した指標			
1 暮らしを支える快 適なまちづくり	2	0	0	1	0	□都市施設(道路、公園、排水路、駅周辺)の満足度 □公共交通網の満足度 ■災害被災戸数(火災含む)			
2 住みやすい環境と 安全なまちづくり	5	1	1	2	0	□快適な生活環境が整っていると思う市民の割合 □自然環境の満足度 □人口 1,000 人当たりの刑法犯認知件数 ■生活環境に関する苦情件数			
3 にぎわい豊かな暮 らしを創出するま ちづくり	1	1	0	3	0	□森林整備年間実施面積(累計) □法人市民税額 ■年間宿泊観光客数 ■年間観光客入込数			
4 だれもが生きがい を持って安心して 暮らせるまちづく り	4	2	1	2	1	□介護保険サービスの満足度 □健康だと思う市民割合 ■この地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割合			
5 生涯を通じて人と 人とがふれあい共 に学びあえるまち づくり	2	1	1	2	0	□スポーツ活動に親しむ市民の割合 □人権が尊重されているまちだと思う市民の割合 ■学校生活に満足している生徒の割合 ■生涯学習に取り組んでいる市民の割合(全般的)			
6 市民と行政が協働 してつくるまちづ くり	0	1	2	4	0	□山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合 ■市民活動(地域活動)に参加している市民の割合 ■市政情報の提供の満足度 ■公正確実な事務の執行の満足度			

②基本事業の成果指標動向【108基本事業207指標】

	成果指標の動向					口口 海		
6つの政策	達成	福	中	低	1	□目標達成、概ね順調な主な指標 ■維持・横ばい、計画開始当初より低下した指標		
1 暮らしを支える快 適なまちづくり	Ø	2	9	5	0	□駅周辺の利便性に対する満足度 □市内移動の交通手段に困っている市民の割合 □自主防災組織数 ■床上浸水件数		
2 住みやすい環境と 安全なまちづくり			6	9	1	□市の事務事業により発生する二酸化炭素の量 □防犯カメラの設置台数(累積) □航空機騒音対策に対する満足度 ■産業廃棄物不法投棄件数		
3 にぎわい豊かな暮 らしを創出するま ちづくり	7	2	6	7	3	□農地中間管理集積面積 □観光協会 HP 等の閲覧数 ■市内で日用品や食料品を買う市民の割合 ■観光施設(海水浴場)の利用者数		
4 だれもが生きがい を持って安心して 暮らせるまちづく り	15	3	16	7 3		□新規要支援・新規要介護認定者の割合 □乳幼児健診の満足度 □結婚する意欲のある独身者の割合 ■社会参加している高齢者の割合		
5 生涯を通じて人と 人とがふれあい共 に学びあえるまち づくり	7	2	10	16	2	□学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数 □芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合 ■中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している 生徒の割合		
6 市民と行政が協働 してつくるまちづ くり	16	0	10	9	1	□市民活動支援施設の利用者数 □多文化共生社会への行政・市民団体の取組数(オリパラ関連除く) □まちの魅力の各種メディア掲載件数 ■広報紙を読んでいる市民の割合		

4. 学識経験を有する者の知見

慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員 金子 光

1. 山武市の総合計画と行政評価

(1) 山武市の総合計画

山武市の総合計画は市の最重要計画として6つの政策から構成されており、それぞれの政策で明確な目的が掲げられている。今回評価を行う総合計画は、令和元年度から令和4年度までを計画期間とし、「海岸、田園、丘陵という豊かな自然環境を活かしたまちづくり」「成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくり」「将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくり」を進めるために6つの政策、その下に24の施策・108の基本事業・約1,000の事務事業が存在している。それぞれが上位の目的を達成するための手段という関係が成り立っており、政策一施策一基本事業という政策体系の明示化により政策目的と手段の明確化・体系化が図られている。

(2) 山武市の行政評価

山武市の行政評価制度は施策・基本事業の達成度を評価する制度であり、目的と しては以下の6つが挙げられる。

- ①総合計画に基づいた成果重視の事業実施を行う
- ②行政資源の効率的配分とその効率的活用を可能とする基準づくり
- ③職員の意識改革を促進し、コスト意識・マネジメント意識を醸成する
- ④市民への説明責任を果たす
- ⑤総合計画の策定とそれに伴う進捗状況(達成度)を評価し、次の計画に生かす
- ⑥不要な事業、無駄な事業を削減・縮小・廃止する

評価の実施方法としては、施策と基本事業について内部評価が行われており、令和 2年度は令和元年度から始まった第2山武市総合計画の1年目の評価にあたる。

施策・基本事業の評価結果は「まちづくり報告書」を通して市民に情報を公開し説明責任を果たしている。

2.「まちづくり報告書」の特徴

(1) グラフによるトレンドの把握

それぞれの指標についてグラフが記載されており、その中で基準値とめざそう 値が設定されておりトレンドが分かる。

(2) <原因>における分析

グラフから現状を把握した上で、評価のなかで<状況>と<原因>が書かれ 分析が行われている。

(3) 市民生活との関連

基本事業の記述については市民生活に直結するものが取り上げられている。

(4) アウトカム指標の活用

アウトカム指標はまちづくりアンケートの結果や統計データ、業務取得データ など、その施策の目的・意図に貢献したかどうかを検討しながら設定されている。

(5) 次年度へのフィードバック

行政サービスを市民のニーズに合わせて効果的・効率的に提供していくために、 行政サービスの分野ごとに目標と達成度を示す指標を定めデータに基づく客観的 な評価を行っている。そして評価の結果を次年度の計画に活用しようと取り組ん でいる。

3. 「学識経験を有する者の知見」のフィードバック

令和元年度の「学識経験を有する者の知見」の内容を踏まえて、令和 2 年度の評価方法に変化が見られる。

(1)政策 01 施策 01 基本事業 04「駅周辺の利便性の向上」

<令和元年度における提言>

「基本事業成果指標」の「駅周辺の利便性に対する満足度」の「課題内容」のなかで、利用者のニーズに関する記述があるが、利用者のニーズはどのように把握し、どのような結果であるのか説明があると分かりやすい。それをどのように今後の整備に活かすのか記述があることが望ましい。

<令和2年度の評価>

<原因>のなかで、「電車本数の増加、駅へのアクセス向上、駐車場や停車スペース、店舗や立寄り所などの周辺施設整備」などについて記述されるようになった。

(2) 政策 02 施策 04 基本事業 01「安定給水の確保」

<令和元年度における提言>

基本事業成果指標の「漏水事故件数【市営水道】」の<原因>において「比較的新しい配水管のため、漏水事故件数は横ばいとなっています」とあるが、新しい配水管であるにもかかわらず事故が発生した原因を説明することが望ましい。

<令和2年度の評価>

漏水事故件数【市営水道】は0件となり、めざそう値を達成した。

(3) 政策 03 施策 03 「観光の振興」

<令和元年度における提言>

「年間観光客入込数」の<原因>において、「海水浴やイベント等は天候の影響を大きく受けます」とあるが、天候という外部要因のみでなく、内部要因についても分析することで PR の仕方などの改善を図ることが望ましい。

<令和2年度の評価>

天候要因のみならず、「通年観光資源の更なる掘り起し」、「ターゲットを絞った PR 活動」について記述されるようになった。

(4) 政策 05 施策 03「スポーツの振興」

<令和元年度における提言>

「スポーツ活動に親しむ市民の割合」の<原因>において、「出来るようです」 や「行っているようです」など推測による表現になっているが、根拠と結論の 因果関係を明確にすることが望ましい。

<令和2年度の評価>

年代別、項目別に分析し、根拠と結論の因果関係が明確に説明されるようになった。

(5) 政策 05 施策 03 基本事業 03「体育施設の充実」

<令和元年度における提言>

「体育施設の利用者数」の<原因>において、改修以外に利用者数増加の 原因は何があるか分析した方が良い。改修が完了した現在、めざそう値を達成 するうえで必要なことは何か記述があると分かりやすい。

<令和2年度の評価>

今後の対策として、「予約状況の管理」を行うことが明記された。

4. 「まちづくり報告書」の各項目の内容と課題

(1)「施策のプロフィール」

- ①「施策の対象」が書かれており、それぞれの施策について誰のために実施して いるかが明らかになっている。
- ②「施策の意図」が書かれており、一つひとつの施策について、市民が市の目標 や方向性をイメージできる。

(2) 施策・基本事業の「指標」について

山武市の成果指標は、上位から「施策」、「基本事業」、「事務事業」として構成される体系の各階層が目的と手段の関係になっている。「施策」や「基本事業」で定めた対象や意図に対し、成果達成度を分かりやすくする観点から指標を選択し、その進捗状況を具体的な数値で測っている。

(3) 施策・基本事業の「グラフ」について

- ① 指標について客観的なデータが示されており現状を把握できる。
- ②前年度との比較で現状を把握できトレンドが分かる。

(4) グラフの「めざそう値」について

施策の成果指標の「めざそう値」を設定していることにより、山武市の未来に対する明確な目標が分かる。また、設定した基準も明確になっており、市民にとっても分かりやすい。

達成目標の設定は、Specific(具体的である)、Measurable(測定可能である)、Ambitious(意欲的である)、Realistic(現実的である)、Time bound(時宜を得ている)であることが望ましいが、山武市の「めざそう値」はこれらすべてを満たしている。Ambitious かつ Realistic な目標を設定することは難しいが、山武市の「めざそう値」は、これらを両立できる値に適切に設定されている。これにより市民も未来に対する目標や方向性を共有することができる。

(5)「評価」のなかの「原因」について

① 政策 01 施策 03 基本事業 03「防災意識の向上」

「基本事業成果指標」の「災害に対する備えの平均実施項目数(全 12 項目)」の<原因>において、「出来ていると思われます」、「共有できていると思われます」という記述があるが、データに基づいて記述することが望ましい。

② 政策 02 施策 03 基本事業 01「自然環境保全活動の推進」

「基本事業成果指標」の「自然環境保全活動に参加している団体数」の<原因 > において、「市民や企業の意識が高まってきている」とあるが、数値は前年と変化していない。意識が高まっているにもかかわらず、なぜ団体数が増加していないのか要因について分析することが望ましい。

③ 政策 02 施策 04 基本事業 01「安定給水の確保」

「基本事業成果指標」の「漏水事故件数【広域水道】」の<原因>において、「配水管改良工事を計画的に実施し、漏水事故の減少に努めています」とあるが、平成30年度の23件に対して、令和元年度は26件となり増加している。増加している要因について分析することが望ましい。

④ 政策 05 施策 01「学校教育の充実」

「学校生活に満足している児童の割合」の<原因>において、「支援員の配置によりきめ細かな指導が行き渡っている」とあるが、それにもかかわらず、数値が減少傾向である要因は何か分析すると今後の対策につながる。

⑤ 政策 05 施策 01「学校教育の充実」

「学校生活に満足している生徒の割合」の<原因>について、令和元年度では 「相談体制はあるが、利用に結びつかなかったことが原因」とあるが、令和2年 度では、相談体制についての記述がない。数値が減少傾向にあるなかで、相談体 制をどのように見直しているかを記述することが望ましい。

⑥ 政策 05 施策 01 基本事業 05「教育環境の整備」

「学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数」は0件で推移し、めざそう値を達成している。<原因>において、「突発的な案件についても迅速かつ適切に対応してきた」とあるが、このようなフィードバックのあり方は他の政策においても参考となる。

⑦ 政策 05 施策 03 基本事業 02「体育関係団体・指導者の育成」

「体育関係団体の指導者数」の<原因>において、「指導者数を維持している」 とあるが、基準値と比較して減少している理由を分析することで、めざそう値を 達成するために必要な対策を明らかにすることが望ましい。

⑧ 政策 05 施策 04「人権尊重のまちづくり」

「あらゆる分野で男女が対等に参画していると思う市民の割合」の<原因>において、世代別や男女別の割合について記述されていることは分かりやすい。そのうえで、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

⑨ 政策 06 施策 02「開かれた市政とまちの魅力発信」

「多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合」の<原因>において、令和元年度では「30歳代等の若い世代の意見を聞く機会がなかった」という記述があり、令和2年度では「年齢別で10~20歳代の若い世代で満足している割合が高く、職業別では『学生』が高くなっている」となっている。年齢別の割合について、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

⑩ 政策 06 施策 02 「開かれた市政とまちの魅力発信」

「市民の声が市政に届いていると思う市民の割合」の<原因>において、世代別の割合について記述されていることは分かりやすい。そのうえで、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

5. 「海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武」に向けて

山武市においては市民の生活に直結する事業を中心に評価が実施されている。平成 25 年度から始まった後期基本計画は計画期間が終了し、これまでのまちづくりの評価 結果を踏まえ、令和元年度から第2次山武市総合計画が策定され、今後のまちづくりに 向けて、着実に対応が図られている。

また、この「学識経験を有する者の知見」で提言したことが次年度の「まちづくり報告書」の作成にフィードバックされており、年々、評価手法が進化している。

山武市を取り巻く環境の変化に的確に対応し、今後も行政評価の結果を政策にフィード バックすることで、「海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武」を実現していく ことが望まれる。



5. 総合計画の体系図

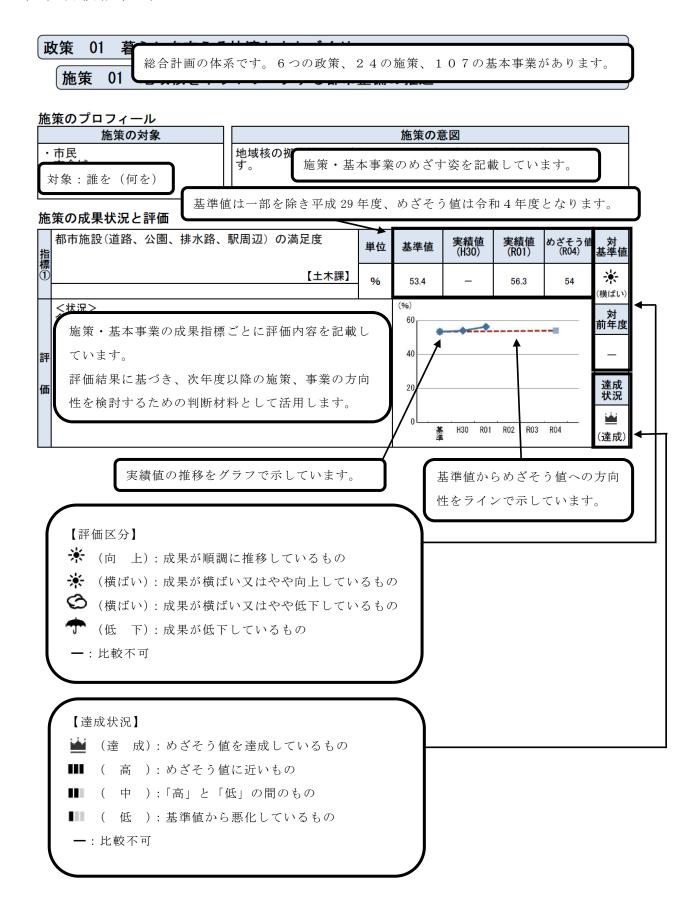
- 基本構想 ・海岸、田園、丘陵という豊かな自然環境を活かしたまちづくり
 - ・成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくり
 - ・将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくり

1 地域核をネットワークする 都市整備の推進 2 成田空港周辺地域としての基盤整備 3 浸水対策の推進 4 駅周辺の利便性の向上 5 公園の適正な管理 6 まちなみ・家屋・土地の適正管理と有効活用 1 市内における交通手段の確保 2 バスでの主要都市へのアクセス向上 3 鉄道の利便性向上 1 地域防災力の向上 2 災害支援体制の確立 3 防災・減災対策の推進 2 原業物の減量・処理の適正化 2 原業物の減量・処理の適正化 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 前の機能を予め対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 原業物に関する意識の向上とPS 3 バイオマスタウン構想の推進 2 自然環境取組意識の向上 3 バイオマスタウン構想の推進 4 再生可能エネルギー対策の推進 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 1 安定給水の確保 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策 4 経営の健全化 1 防犯体制の充実 1 回路・は利力充実 2 世際等の災害対策 4 経営の健全化 1 防犯体制の充実 2 世際等の災害対策 4 経営の健全化 1 1 防犯体制の充実 2 世際等の災害対策 4 経営の健全化 1 1 5 世際・アクラー 2 世界・アクラー 2 世界・	重点 分野	行政改革
1 地域核をネットワークする	•	•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 廃棄物の減量・処理の適正化環境 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化環境 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 度報 2 度報の限金	•	•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進	•	•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすり 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化環境 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすり 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化環境 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		•
住みやすい 1 生活環境の充実 1 生活公書の対策 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 バイオマスタウン構想の推進		
住みやすい 1 生活環境の充実 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境取組意識の向上 3 バイオマスタウン構想の推進 3 バイオマスタウン構想の推進 1 ボール 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1		
1 生活環境の充実 2 美化運動の推進と不法投棄防止対策 3 航空機騒音等の対策 1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化環境 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境取組意識の向上 3 バイオマスタウン構想の推進		
3 航空機騒音等の対策		
1 ごみの減量化・再資源化の推進 2 廃棄物の減量・処理の適正化 2 廃棄物に関する意識の向上と啓発 3 ごみ処理の効率化 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境取組意識の向上 2 自然環境取組意識の向上 3 バイオマスタウン構想の推進 4 再生可能エネルギー対策の推進 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 2 収質の安全性の確保 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策 2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3		
1		
環境と安全なまちづくりりすり 4 上水道の充実 1 日然環境保全活動の推進 2 自然環境の保全 3 パイオマスタウン構想の推進 4 再生可能エネルギー対策の推進 5 汚水処理の推進 1 安定給水の確保 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策 2000年の1月2月2日 1 2 2 2 2 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		
境と安全なまちづくりりります。 1 自然環境保全活動の推進 2 自然環境取組意識の向上 3 バイオマスタウン構想の推進 4 再生可能エネルギー対策の推進 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 1 安定給水の確保 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策		
2 自然環境取組意識の向上		
2 4 上水道の充実 1 <		
2 事生可能エネルギー対策の推進 5 5 6 1 6 2 7 3 2 2 3 地震等の災害対策		
2 春 5 汚水処理の推進 5 汚水処理の推進 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策		
1 安定給水の確保 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策		
つくり す 4 上水道の充実 2 水質の安全性の確保 3 地震等の災害対策 2 2 2 3 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		
り す 上水道の充実 地震等の災害対策		
OVAN OF BOAR		
V 1 4		
環 1 防犯体制の充実		
境 2 児童・生徒の安全確保		
の整 5 防犯・交通安全の推進 3 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の監	2備	
備 4 消費者トラブルの防止		
5 交通安全意識の向上		
1 奴党の中央ルの世界		
に ぎ わ 1 脚サル産業の振脚 3 農地の利用集積の推進	•	
わ 3 農地の利用集積の推進		
豊 豊 農業基盤整備の推進		
かりかりの対象を表現しています。		
4 農産物の付加価値向上と販路の拡大 5 農業基盤整備の推進 6 森林再生の推進 6 森林再生の推進 1 市内消費の向上 2 経営体の体質強化・育成 3 企業立地と企業定着による雇用の推進		
3 春 古 産 業		
2 地域経済活性化 3 企業立地と企業定着による雇用の推進	•	
をち済 4成田空港経済圏の形成	•	
プ 振 1 魅力ある観光事業の推進		
1	•	
り 当 観光情報の発信	_	-

	政策名			施策名		基本事業名	重点	行政 改革
	EXXX.			лежец			分野	改革
	だ				1	生きがいづくりと介護予防の推進	•	
	ħ		1	高齢者福祉の充実	2	介護サービス・日常生活の支援		
	ŧ				3	安全・安心な生活への仕組みづくり		
	か				4	介護保険制度の安定的な運用		
	玉				1	自立支援サービスの促進		
	<u>ਵ</u> **		2	障がい者(児)福祉の充実	2	地域生活支援の基盤づくり		
	1.)		_	1473 V.18 (76) 181E-576-5	3	社会活動参加の促進		
	٠ انج				4	児童発達支援の充実		
	持				1	心身の健康管理の充実		
	ີວ				2	健診の受診率向上と生活習慣の改善		
	<u>ج</u>		3	健康づくりの推進	3	母子の健康管理		
	安				4	医療体制の充実	•	•
4	心				5	国民健康保険医療費の改善		
	Ļ				1	幼保機能の充実	•	•
	だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり	保			2	子育て不安の軽減		
	12	健			3	子育て家庭への援助		
	4	• 福	4	子育ての支援	4	こどもの人権の尊重		
	る	祉			5	学童保育の充実		
	ま	•			6	次世代育成による家族形成の支援		
	ち	医			1	地域福祉の担い手育成		
	Š	療			2	社会福祉機関・団体の充実		
	5	Ø,	_	地域福祉の充実と	2			
	ט	充	Э	セーフティーネットの推進	3	生活困窮者自立支援の充実		
		の充実」			4	生活保護制度の適正な実施		
					5	公営住宅の維持管理		
	生涯を通じて人と人とがふれあせに学びあえる。				1	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進	•	
					2	「健やかな体」の育成		
			1	学校教育の充実	3	「豊かな心」を育む		
	通			11371307127	4	ICT 教育の実践	•	
	<u> </u>				5	教育環境の整備		
	(6	地域と学校の協力体制の推進		
	ᄼ				1	主体的な学習の推進		
	ヹに			生涯学習の推進	2	生涯学習施設の利用促進		
5	2学	_	2		3	文化財の保護・活用		
	がび	教			4	芸術文化活動の充実		
	ふる	教育			5	青少年の育成		
	찬소	•			1	スポーツ活動の充実		
	あず	文	3	スポーツの振興	2	体育関係団体・指導者の育成		
	아务	化				体育施設の利用促進		
	ゔ	()) +=			1	人権教育・人権啓発の推進		
	へと人とがふれあい共に学びあえるまちづくり	の振興]	4	人権尊重のまちづくり		人権擁護の推進		
	b	苎	ľ	ハルウエッのランマン	3	男女共同参画の推進		
	_				1	区・自治会活動の活性化		
	曹				2	市民活動の活性化	•	
	氏		1	協働と交流による	3	市民活動施設の利用促進		
	市民と行政が協働してつくるまちづくり		1	まちづくり	4	の民活動ル設の利用促進多文化共生社会の推進		
	ī/o				5	東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進		
	が					東京イリンとック・ハブリンとック関連事業の推進 情報発信力の充実	•	•
	協	$\overline{\Box}$	_	開かれた市政と	1		_	
	働	11	2	まちの魅力発信	2	広聴の充実		
	U				3	議会情報の公開の推進		_
	ζ	≡			1	行政経営の推進		•
6)	1			2	人材育成と効率的な組織運営		•
	2	推	3	計画的・効率的な	3	健全な財政運営	•	•
	±	進		行財政運営	4	税収の確保		•
	£	لح			5	公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進		•
	ゔ	コミュニティ推進と行財政の効率化			6			
	<	財			1	適正な会計処理		
	b	以			2	積極的な選挙啓発		
		(J)		ハエ映中と東欧へ続く	3	監査の充実		
		X/J 弦/	4	公正確実な事務の執行	4	情報公開及び個人情報保護の推進		
		花			5	窓口サービスの向上		•
		-13			6	公平・公正な課税		
						The second		

6. 施策の進み具合の報告

(1) 評価結果の見方



(2) 施策·基本事業評価結果

【政 策】

1 暮らしを支える快適なまちづくり

【施 策】

- 1-1 地域核をネットワークする都市整備の推進
- 1-2 公共交通網の整備・充実
- 1-3 防災・減災対策の充実

政策 暮らしを支える快適なまちづくり 01

施策 地域核をネットワークする都市整備の推進 01

施策を取り巻く環境変化と課題

国・県道においては、市街地における国道126号とそれに接続する県道の 渋滞緩和や、通学路及び生活道路では安全に通行できる環境整備が、それぞれ 求められています。加えて、成田空港の機能強化に伴い、成田空港方面へのア クセス改善や、産業振興を視野に入れた道路環境の改善が必要となっていま

す。 排水路等を含む道路施設や公園施設については、適正な管理が求められ、定期的な調査や修繕が必要となっています。 駅周辺の市街地については、人口が微減する一方、高齢化が進んでいることから、駅周辺の中心市街地の活性化や、利便性の向上を図る必要があります。 その他の地域では、人口減少に伴い増加している空家への対策等を通じて、秩序あるまちなみ形成につなげる必要があります。

施策の 環境変化と 課題

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
都市施設(道路、公園、排水路、駅周辺)の満足度(%)	成果	•	56.3	- ★- (横ばい)	-	

基本事業の成果指標

	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	道路の拡幅 改良 新設延長 (計画期間累計 ) (Km )	成果	ı	2.91	<b>☆</b> (向上)	ı	
01	道路・橋りょうの維持管理上の瑕疵による損害賠償件数(件)	成果	1	2	<b>会</b> (横ばい)	ı	
02	成田空港関連事業実施箇所数(延べ)(箇所)	成果	1	30	<b>※</b> (向上)	ı	
03	床上浸水件数 (件)	成果	ı	61	<b>十</b> (低下)	ı	
04	駅周辺の利便性に対する満足度 (%)	成果	1	47	<b>☆</b> (向上)	1	
05	都市公園長寿命化進捗率 (%)	成果		13.4	<del>※</del> (向上)	-	
05	公園の維持管理上の瑕疵による損害賠償件数(件)	成果		0	<del>-</del>   <del>×</del> (横ばい)	-	
06	空家対策数 (件)	成果		8	<b>会</b> (横ばい)	-	
06	景観条例指導件数 (件)	成果	-	0	<b>-</b> ★- (横ばい)	-	

掲載欄に のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

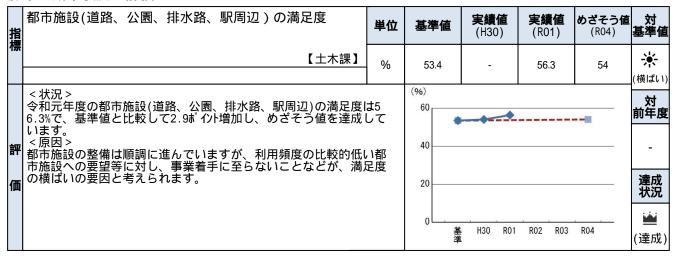
### 政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

### 施策 01 地域核をネットワークする都市整備の推進

### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民・市全域	地域核の拠点機能及びネットワークが形成され、利便性が向上しま す。

### 施策の成果状況と評価



### 基本事業の成果状況と評価

### (基本事業 01 道路網の整備・維持管理

基本事業 02 成田空港周辺地域としての基盤整備

(基本事業 03 浸水対策の推進

基本事業 04 駅周辺の利便性の向上

基本事業 05 公園の適正な管理

基本事業 06 まちなみ・家屋・土地の適正管理と有効活用

基本事業01 道路網の整備・維持管理

2	<b>*</b>	中字未○! 但时啊V定備 ` 離打日垤	_					
1	指標	道路の拡幅・改良・新設延長(計画期間累計)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	漂	【土木課】	Km	0	-	2.91	8	*
			(Km)					(向上)
1	評	< 状況 > 令和元年度の道路の拡幅・改良・新設延長は2.91kmです。 <原因 > 第2次総合計画の道路網の整備・維持管理が順調に進んでいるため です。	10 8 6					対前年度
1	価		2 0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)

基本事業03 浸水対策の推進

	_							
	指標	床上浸水件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	標	【土木課】	件	0	-	61	0	<b>→</b>
ı			(件)					(低下)
	評	<状況> 令和元年度の床上浸水件数は、61件です。 <原因> 排水路の整備は順調に進んでいますが、近年の気象状況の変化により、既設排水路の規格、改修を含め対策が必要と考えられます。	80 60 40		1			対 前年度
	価	V. WILLINGS OF THE CHARLES OF THE CONTROL OF THE CHARLES OF THE CH	20	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業04 駅周辺の利便性の向上

抖材	駅周辺の利便性に対する満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
材	【都市整備課】	%	40.8	-	47	43	*
		(%)					(向上)
許	令和元年度については、成東駅では、周辺道路工事による将来への   期待が高まったものと考えられる一方で、10歳代などの若い層や60	30 – 20 –	<u></u>				対前年度 - 違成況
ſī	マ64歳代、また、整備の行われていない日向駅や松尾駅の利用者の不満が多い傾向でした。 電車本数の増加、駅へのアクセス向上、駐車場や停車スペース、店舗や立寄り所などの周辺施設整備が求められています。	10	基 H3 準	0 R01 R0	02 R03	R04	(達成)

基本事業()6 まちなみ・家屋・十地の適正管理と有効活用

3	垦	4手美06 よちなみ・豕座・工地の適止官埋と有効活用						
	指標	空家対策数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	標	【都市整備課】	件	0	-	8	66	ග
			(件)					(横ばい)
	評		80 60 40			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	_	対前年度
	価	が未実施となりました。 また、適正管理の推進におけるリーフレットの配布も年度末となり、地区周知における回覧も未実施となったことから、空家の改善に至るケースが少なかったことが原因と考えられます。	20	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)

### 政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

### 施策 02 公共交通網の整備・充実

### 施策を取り巻く環境変化と課題

人口減少及び少子高齢化(平成29年4月1日現在、高齢化率31.8%)が急速に進んでおり、日常生活の移動手段がない高齢者が増加傾向にあり、交通弱者の移動手段として公共交通の重要性は大きくなっています。そのため、市内3区域内を運行するデマンド対応の乗合タクシーと、各地域の拠点及び主要施設間を連絡する基幹バスを運行し、接続可能な公共交通の確立を目指します。本計画期間では、平成30年度に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」に基づき、各交通手段の連携と維持向上、より公共交通を使いやすい環境づくりに取り組んでいきます。

施策の 環境変化と 課題

### 施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
公共交通網の満足度 (%)	成果	•	45.9	<del>↓</del> (横ばい)	1	

### 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市内移動の交通手段に困っている市民の割合(%)	成果	-	34.5	<b>☆</b> (向上)	ı	
01	基幹バスの年間利用者数 (人)	代替	-	47,854	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
01	乗合タクシーの年間利用者数 (人)	代替	-	47,462	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
01	バス運行状況の満足度 (%)	成果		42.4	<b>※</b> (向上)	-	
02	東京 千葉方面への 1日当たりのバス利用者数 (人)	成果		1,117	<b>十</b> (低下)	1	
02	成田空港方面への1日当たりのバス利用者数(人)	成果	-	68.5	<b>介</b> (低下)	-	
03	1日当たりの鉄道利用者数 (人)	代替	-	4,551	(低下)	-	

掲載欄に のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

### 政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

### 施策 02 公共交通網の整備・充実

### 施策のプロフィール

### 施策の対象

- ・市民
- ・交通事業者

### 施策の意図

・公共交通網が充実し、市民生活における移動の利便性が高まります。

### 施策の成果状況と評価

<b>才</b>	- 1	公共交通網の満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	<b>示</b> -	【企画政策課】	%	41.3	-	45.9	45	<b>☆</b> (横ばい)
	Ŧ	<状況> 令和元年度の公共交通網の満足度は45.9%で、基準値と比較して 6ポイント増加し、めざそう値を達成しています。 <原因> アンケートの割合では、男女とも45%を超え、年代別では10歳代 40%弱ですが、60歳代以上では50%前後です。地域別では成東地の52.5%と山武地域の38.6%で地域差がみられます。公共交通で、鉄道・一般路線バス・一般タクシーに加え、基幹バス・乗着クシーの認知と利用が市民に浸透していきているものと考えます	弋は 地域 とし	(%) 50 40 30 20 10 0	H30 R01	R02 R03	R04	対前年度 - 達成 状況

### 基本事業の成果状況と評価

### 基本事業 01 市内における交通手段の確保

基本事業 02 バスでの主要都市へのアクセス向上

基本事業 03 鉄道の利便性向上

### 基本事業01 市内における交通手段の確保

=							
指模	市内移動の交通手段に困っている市民の割合 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
模	【企画政策課】	%	39.7	-	34.5	35.8	*
		(%)					(向上)
音	< 状況 > 令和元年度の市内移動の交通手段に困っている市民の割合は34.5%で、基準値と比較して5.2ポイント減少し、めざそう値を達成しています。	30 – 20 –		<b>—</b>		-	対前年度
A	一般の公共交通機関に加え、基幹バス・乗合タクシーの認知と利用が進んだことにより指標値が向上したものと考えます。アンケートの割合では、若年層で50%を超え、地域間では10%程度の差異もみられることから、指標値の向上には、世代や地域ニーズに配慮した取り組みが必要であると考えます。	10	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 (達成)

基本事業01 市内における交通手段の確保

3	基幹バスの年間利用者数 指 環	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	<b>漂</b> 【企画政策課】	人	47,723	-	47,854	48,000	*
		(人)					(横ばい)
Time.	< 状況 > 令和元年度の基幹バスの年間利用者数は47,854人で、基準値を131人増加しました。	50, 0 40, 0 30, 0	00	<del></del>		-	対前年度
1	ますが、令和元年度は、台風15号やコロナ禍の影響もあり、利用者 数が伸び悩む要因がありました。利用者の増加には、利用者ニーズ への対応と車両やバス停等の利用しやすい環境づくり等が必要と考えます。	20, 0 10, 0		H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 ■■■ (高)

基本事業02 バスでの主要都市へのアクセス向上

-3	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・						
才	東京・千葉方面への1日当たりのバス利用者数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【企画政策課】	人	1,270	-	1,117	1,332	+
		(人)					(低下)
ŧ	< 状況 > 令和元年度の東京・千葉方面への1日当たりのバス利用者数は1,11 7人で、基準値と比較して153人減少しました。 マ < 原因 > 1 (海浜幕張方面行)が平成	1, 40 1, 20 1, 00 80 60	00			-	対 前年度 -
1	利用者数の減少は、ストロベリーライナー(海浜幕張方面行)が平成30年度の平日便休止に続く令和元年度6月からの土休日の減便、台風による欠便やコロナ禍の影響により利用者が減少したことが原因であると考えます。	40	00				達成状況
			基準	H30 R01	R02 R03	R04	(低)

基本事業02 バスでの主要都市へのアクセス向上

指標	成田空港方面への1日当たりのバス利用者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
標	【企画政策課】	人	91	-	68.5	95	<b>-</b>
	< 状況 >   今和元年度の成田空港方面への1日当たりのバス利用者数は68.5人	(人)	*			-	(低下) 対 前年度
評	で、基準値と比較して22.5人減少しました。   <原因>	80 - 60 -		-			-
価	令和元年度は、台風15号やコロナ禍の影響もあり、利用者数が伸び   悩む要因がありました。利用者の増加には、利用者ニーズへの対応   と車両やバス停等の利用しやすい環境づくり等が必要と考えます。	40 20					達成状況
		ol	基出準	30 R01 F	R02 R03	R04	【低)

### 政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

### 施策 03 防災・減災対策の推進

### 施策を取り巻く環境変化と課題

東日本大震災以降、市内の自主防災組織の設置が促進されています。地域主体の継続的な活動が期待されます。 干薬に域防災計画の一部改訂を受けて、避難行動要支援者の個別支援計画 の策定が必要となります。 近年は台風等の集中豪雨による災害が多く発生しています。自主防災組織に よる訓練等の積極的な活動が期待されます。 地域防災強化として消防団員の確保が必要です。団員の消防技術の維持・向上のために訓練が必要です。 津波対策として、井之内地先に津波避難施設(築山)の整備を進めていま す。

### 施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
災害被災戸数(火災含む) (戸)	成果	•	2,621	<b>→</b> (低下)	ı	

### 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自主防災組織数 組織 )	成果		81	<b>学</b> (向上)	-	
01	各地区防災訓練実施率 (%)	成果	-	46.2	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
01	避難行動要支援者名簿の情報提供に同意した人数の割合(%)	代替	-	22.3	<del>-</del> ≱- (横ばい)	-	
02	地域防災計画における災害支援体制 7項目の充足率 (%)	成果		100	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	災害に対する備えの平均実施項目数(全12項目)(項目)	成果	-	4.88	<del>学</del> (向上)	-	
04	消防団の火災出動率 (%)	成果	-	65.8	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
04	消防団員の充足率 (%)	成果	-	93.5	<b>ら</b> (横ばい)	-	
04	常備消防職員の充足率 (%)	代替	-	98.2	<b>ら</b> (横ばい)	-	
05	強靭化対策が終了 した箇所 施設数 (東日本大震災以降の累計) (箇所)	成果	-	5	<b>※</b> (向上)	-	

掲載欄に のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

#### 暮らしを支える快適なまちづくり 政策 01

#### 施策 防災・減災対策の推進 03

### 施策のプロフィール

### 施策の対象

- ・市民・行政 ・消防団・常備消防

### 施策の意図

・市民の防災意識が高まり、地域の防災力が向上し、災害の被害が 少なくなります。

### 施策の成果状況と評価

指標	災害被災戸数(火災含む)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
仿	【消防防災課】	戸	59	-	2,621	50	<del>个</del> (低下)
許	INCA SIXXICA SOUCE 9 .		(戸) 3,000 2,500 2,000 1,500 1,000 500	基 H30 R(	)1 R02 R03		対 前年度 達成 状況

### 基本事業の成果状況と評価

# 基本事業 01 地域防災力の向上 基本事業 02 災害支援体制の確立 基本事業 03 防災意識の向上 基本事業 04 消防力の充実 基本事業 05 強靭化対策の推進

基本事業01 地域防災力の向上

_=	<u> </u>						
抖材	自主防災組織数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
村	【消防防災課】	組織	67	-	81	72	*
		(組織)					(向上)
	<状況>	100					対 前年度
	令和元年度の自主防災組織数は81組織で、基準値と比較して14組織増加し、めざそう値を達成しています。	80	-	-			的十尺
討		60					-
	元年度末現在の組織数は81組織で、成東地区44組織、山武地区11組	40					N
ſī	織、松尾地区12組織、蓮沼地区14地区で訓練を実施しました。	20					達成 状況
		ol					12.0
			基料	30 R01 R	R02 R03	R04	<del>  </del>  (達成)

基本事業02 災害支援体制の確立

2	#	中学来()2 火舌又该件问()7 唯立						
1	指漂	地域防災計画における災害支援体制7項目の充足率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	漂	【消防防災課】	%	100	-	100	100	*
			(%)					(横ばい)
	評		120 100 80 60	•	•		-	対 前年度 -
1	西	蓄品については、賞味期限を迎える食品等を入替備蓄を行いました。給水体制(22箇所)、伝達手段(8種類)については、基準値を維持しています。防災行政無線、戸別受信機についての不具合については、保守管理を実施し修繕、交換にて対応しています。	40 20 0	基H	30 R01 R	02 R03	RO4	達成 状況 (達成)

基本事業03 防災意識の向上

3	李	中学来(C) <b>内火息戦の</b> 内工						
	指標	災害に対する備えの平均実施項目数(全12項目)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
不	標	【消防防災課】	項目	4.14	-	4.88	4.25	*
1			(項目)					(向上)
	評	<状況> 令和元年度の災害に対する備えの平均実施項目数のは4.88項目で、 基準値と比較して0.74項目増加し、めざそう値を達成しています。 <原因> 災害時に必要とされる飲料水、保存食品、ラジオ・懐中電灯、燃料	3	•			-	対前年度
	価	など基本的な備えは出来ていると思われます。また、災害時の避難	1 0		11 Tr			達成状況
				基 H30 準	R01 R0	)2 R03	R04	<b>■</b> (達成)

基本事業05 強靭化対策の推進

_=		_					
<b>非</b>	強靭化対策が終了した箇所・施設数(東日本大震災以降の累計) <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【消防防災課】	箇所	4	-	5	6	*
		(箇所)					(向上)
i	津波避難タワー(2基)、津波避難階段(2施設)、木戸川堤防嵩上	6 4				_	対前年度
ſĨ	┃ げが完了し、津波から生命・財産を守るインフラ整備が着実に進ん	2					達成 状況
		0	基 H30	R01 R0	02 R03	R04	<b>■■</b> (中)





### 【政 策】

2 住みやすい環境と安全なまちづくり

### 【施 策】

- 2-1 生活環境の充実
- 2-2 廃棄物の減量・処理の適正化
- 2-3 自然環境の保全
- 2-4 上水道の充実
- 2-5 防犯・交通安全の推進

### 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

### 施策 01 生活環境の充実

### 施策を取り巻く環境変化と課題

空き家及び空き地における維草等の管理不良状態を放置する管理者が、居所不明の場合等における対策が必要になります。
畑及び畜産場周辺における農薬等の影響、山林等における産業廃棄物の不法投棄により、地下水の水質汚染が懸念されていますが、啓発運動、パトロールの強化により大規模な不法投棄は減少しています。
成田国空港の更なる機能後化策として、第3滑走路の新設・飛行時間の延長が提案されたことから、周辺自治体として新たな騒音対策等が必要となります。
航空機騒音直下の市民等に対し、飛行回数増に対する防音等の整備措置を、成田国際空港株式会社に要請していきます。

### 施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

200714 1-707143 A 120,						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
快適な生活環境が整っていると思う市民の割合(%)	成果	-	70.9	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
生活環境に関する苦情件数(件)	成果	-	274	<b>→</b> (低下)	-	
航空機騒音を不快に感じる市民の割合(%)	成果	-	78.4	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	

### 基本事業の成果指標

	3-214-2-1-90-1-45-A 120.						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	空地の管理(雑草等)苦情件数(件)	成果	•	127	<b>→☆</b> (横ばい)	-	
01	その他生活公害苦情件数(件)	成果	-	34	<b>→</b> (低下)	-	
02	産業廃棄物不法投棄件数 (件)	成果	,	13	<b>→</b> (低下)	-	
02	一般廃棄物等不法投棄件数(件)	成果		100	<b>→</b> (低下)	-	
02	ごみゼロ運動参加者数 (人)	成果	-	9,571	<b>→☆</b> (横ばい)	-	
03	航空機騒音対策に対する満足度 (%)	成果	-	76.4	<del>-</del> ⊁- (横ばい)	-	·

掲載欄に のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

### 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

### 施策 01 生活環境の充実

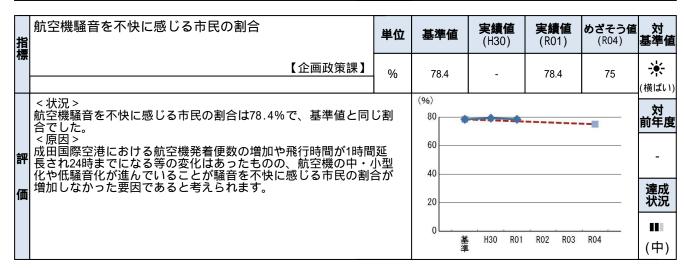
### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民	・市民が快適に暮らせる生活環境を確保します。

### 施策の成果状況と評価

才		快適な生活環境が整っていると思う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	宗	【環境保全課】	. %	67.6	-	70.9	70	<b>-≱-</b> (横ばい)
	秤	<状況> 令和元年度の快適な生活環境が整っていると思う市民の割合は7 %で、基準値と比較して3.3ポイント増加し、めざそう値を達成 ています。 <原因> 30年度と比較すると、騒音、悪臭、野焼きについての苦情件数I 少していますが、空地の管理、犬・猫の管理に関する苦情は増加 向にあります。	しま減	(%) 80 60 40 20	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況 (達成)

1	旨	生活環境に関する苦情件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	示	【環境保全課】	件	248	1	274	248	(低下)
	i <del>ll</del>	< 状況 > 令和元年度の生活環境に関する苦情件数は274件で、基準値と比して26件増加しました。 〈原因 > 苦情の内容は、空き地の管理に関するものが127件で5件の増加、 法投棄に関する苦情は113件で34件増加しました。増加の主な原 としては、台風災害以降の苦情件数が9件増加したことが原因と れます。引続き不法投棄禁止看板やパトロール強化に努めます。	不 [因 :さ	(件) 300 250 200 150 100 50 0	Ĕ H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 達成 状況



見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# (基本事業 01 生活公害の対策

基本事業 02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

基本事業 03 航空機騒音等の対策

### 基本事業01 生活公害の対策

=	十字来01 <u>土冶ム音の対象</u>						
抖模	空地の管理(雑草等)苦情件数   	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
伐	【環境保全課】	件	128	-	127	128	*
		(件)					(横ばい)
部	< 状況 > 令和元年度の空き地の管理(雑草等)の苦情件数は127件で、基準値と比較して1件減少し、めざそう値を達成しています。  【 <原因 > 指導書を受けた土地管理者が継続的な管理を行っていると考えられ	140 120 100 80	*				対 前年度 -
A	ます。	40					達成状況
		0.0	基出準	30 R01 R	R02 R03	R04	<b>達</b> (達成)

基本事業02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

3		ー・ナスペース   10年到 47年20   12以来   12以来						
	指標	産業廃棄物不法投棄件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ľ	標	【環境保全課】	件	4	-	13	4	<b>→</b>
ı			(件)					(低下)
	評	< 状況 >     令和元年度の産業廃棄物不法投棄件数は13件で、基準値と比較して 9件増加しました。 < 原因 >     投棄された廃棄物は廃プラスチック、万、廃油と事業者による不法	14 12 10 8		/			対前年度
	価	投棄された廃棄物は廃プラスチック、瓦、廃油と事業者による不法 投棄が増加しました。原因としては、事業者による廃棄物の不法処 理が原因と思われます。対策として、関係機関と連携を図り、パト ロールを強化します。	4 2 0				-	達成状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(低)

基本事業02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

2	6个字来02 大心足動の16店と小仏汉朱例正別永						
1	一般廃棄物等不法投棄件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【環境保全課】	件	87	-	100	87	+
		(件)					(低下)
	< 状況 >	120 100 80 60	*	<i></i>			対前年度
1	布団、令和元年は消費税の増税もあり、買い替え時に保管されていたテレビの適正処分がされなかったことが不法投棄増加の原因と思われます。対策として、関係機関と連携を図り、パトロールを強化します。	40 20 0	基版	30 R01 R	RO2 RO3	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業03 航空機騒音等の対策

=							
指標	航空機騒音対策に対する満足度		基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
榜	【企画政策課】	%	74.7	-	76.4	80	*
		(%)					(横ばい)
評	<状況> 令和元年度の航空機騒音対策に対する満足度は76.4%で、基準値と 比較して1.7ポイント増加しました。 【<原因> 満足度が上昇した要因としては、防音家屋冷暖房設備維持管理補助	80 60 40				_	対 前年度 -
個	海上では、所有が上げるとは、所有が上げるとは、所有が上げるとは、所有が 金を増額したことが考えられます。 めざそう値に到達しなかった要因としては、飛行時間が1時間延長 され24時までになったことなどが影響していると考えられます。			30 R01 F	R02 R03	R04	達成 状況 ■■■ (高)
			基料	30 R01 F	R02 R03	R04	

#### 政策 住みやすい環境と安全なまちづくり 02

#### 施策 廃棄物の減量・処理の適正化 02

# 施策を取り巻く環境変化と課題

家庭ごみの排出量は市民のごみ減量化・再資源化に対する意識が向上してきており減少傾向にありましたが、令和元年度は災害により発生したごみの搬出が多くなりました。 外国人の誤出しが多くみられることから、山武郡市環境衛生組合を含めごみ袋への英語表記やHPなどを活用した、分別方法等の周知を図る必要があります。

市民と事業者が、 廃棄物の適正排出の意識を高め、きめ細かなごみ分別を 行っていく必要があります。このため、廃棄物の3Rを総合的に推進する必要があります。(リサイクル倉庫の活用、資源回収運動奨励制度の普及等) ごみの最終処理が2つの組合に委託され、袋の料金、容量、収集方法、分別

このの最終処理が200組合に姿託され、袋の料金、谷童、収集方法、分別 方法等が異なっています。 現在実施されている両組合の分別収集品目を今後協議しつつ、法に定めると ころの容器包装廃棄物(10品目)の分別収集に取り組む必要があります。(東 金市外三市町清掃組合:7品目、山武郡市環境衛生組合:9品目) 2028年度からは、成東地域のごみ処理も山武郡市環境衛生組合で取り扱うこ とから、一本化に向けた検討を行う必要があります。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
1人 1日当たりのごみ排出量 (g)	成果	-	764	<b>介</b> (低下)	-	

# 基本事業の成果指標

	-3-21-27-7071-1M						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	家庭ごみ排出量 (t)	成果	•	10,824	<b>(</b> 横ばい)	-	
01	事業系ごみ排出量 (t)	成果	,	3,380	<b>十</b> 低下)	-	
01	再資源化率 (%)	成果		16.8	<b>会</b> (横ばい)	-	
02	ごみ排出指導件数 (件 )	成果	1	4	<b>公</b> (横ばい)	-	
02	残置シール貼付件数 (件)	成果	-	1,653	<del>-</del> ⊁- (横ばい)	-	
03	1人当たりの負担金額 (収集料金・ごみ袋代金を含む)(円)	成果	ı	9,535	<b>公</b> (横ばい)	-	

#### 住みやすい環境と安全なまちづくり 政策 02

#### 施策 廃棄物の減量・処理の適正化 02

# 施策のプロフィール

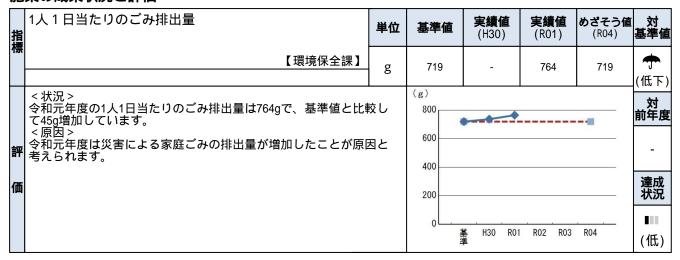
施策の対象
-------

- ・市民
- ・事業者 ・廃棄物処置

### 施策の意図

・ごみ排出量が減り、安全に効率的に処理されます。

### 施策の成果状況と評価



### 「基本事業 01 ごみの減量化・再資源化の推進

基本事業 02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

基本事業 03 ごみ処理の効率化

### 基本事業01 ごみの減量化・再資源化の推進

_							
抖材	家庭ごみ排出量 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
稰	【環境保全課】	t	10,693	-	10,824	10,501	ය
		(t)					(横ばい)
i	<状況> 令和元年度家庭ごみの排出量は10,824 t で、基準値と比較して131 t 増加しています。 <原因> 令和元年度は災害により排出された家庭ごみが増加したことが原因	12. 0 10. 0 8. 0 6. 0	000	-			対前年度
ſī	と考えられます。						達成 状況
			基準	H30 R01	R02 R03	R04	■■ (低)

基本事業01 ごみの減量化・再資源化の推進

- 2	Ĭ		_					
	指標	事業系ごみ排出量	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	標	【環境保全課】	t	3,052	-	3,380	3,153	<b>→</b>
١			(t)					(低下)
	評	<状況> 令和元年度の事業系ごみ排出量は3,380tで、基準値と比較して328 t増加しています。 <原因> 事業系ごみは事業活動に伴い発生するため、景気の動向に左右され	3, 50 3, 00 2, 50 2, 00 1, 50	0			-	対前年度
	価	ることが考えられます。	1, 00 50	0				達成状況
				基準	H30 R01	R02 R03	R04	【【低) 【低)

基本事業02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

指標	ごみ排出指導件数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
榜	【環境保全課】	件	0	-	4	0	ග
		(件)					(横ばい)
割	外国人の不適物が多く見受けられます。排出者が特定された外国人   については、訪問し適宜指導を行っています。	6	<u></u>				対前年度
価		0	基 H30 準	R01 R0	12 R03 F	R04	<b>状況</b> (低)

基本事業02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

_							
才木	残置シール貼付件数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【環境保全課】	件	1,657	-	1,653	1,657	*
		(件)		(横ばい)			
ŧ	< 状況 >	2, 00 1, 50 1, 00	0				対 前年度 -
ſ	傾向として外国人の不適物が多く見受けられたことから転入時に英語でのごみ出しパンフレットを渡しごみ出しの意識向上を図りました。	50	0				達成 状況
			基準	H30 R01	R02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

# 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

# 施策 03 自然環境の保全

# 施策を取り巻く環境変化と課題

地域での環境活動を充実させ、自然環境保全に係る体制を整備する必要があります。
自然環境保全について、市民や企業の意識を高め、自主的な取組を促す必要があります。
本業者不足による山林の荒廃が進んでいるため、森林保全の一環として、県及び民間事業者と共同でパイオマスの取組を実施していきます。
地球温暖化防止のため一酸化炭素の排出量の削減が求められています。
公共用水域の水質が徐々に改善されています。
農業集落排水事業が太平、借毛本郷、武野里、大富の4地区で供用開始しています。
「農業集落排水事業が太平、借毛本郷、武野里、大富の4地区で供用開始しています。」
浄化槽の維持管理が行われておらず、未処理の汚水が公共用水域に排水されてしまうおそれがあります。新築住宅での水洗化はほぼ100%で、合併浄化槽が設置されている状況ですが、引き続き合併処理浄化槽の適正な設置と補助金の継続を図ります。

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
自然環境の満足度 (%)	成果		80.5	<del>-</del> ★- (横ばい)	1	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自然環境保全活動に参加している団体数 (団体 )	成果	1	33	<b>☆</b> (向上)	ı	
02	環境にやさい1生活様式平均実践項目数(項目)	成果	1	5.13	<b>※</b> (向上)	ı	
02	環境学習参加団体数 (団体 )	成果	ı	17	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
03	バイオマスに関する取組の事業数(累計)(件)	代替	ı	8	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
04	再生可能エネルギーの発電装置の普及件数 (件)	成果		1,948	<b>☆</b> (向上)	1	
04	再生可能エネルギーの発電装置による契約発電量 (kw)	成果	1	463,844	<b>※</b> (向上)	ı	
04	市の事務事業により発生する二酸化炭素の量 (tCO2)	成果	ı	4,772	<b>※</b> (向上)	ı	
05	BOD濃度作田川 (中流域 ) (mg/l)	成果	ı	1.7	<b>※</b> (向上)	ı	
05	BOD濃度木戸川 (中流域 ) (mg/l)	成果		1.5	<b>→</b> (横ばい)		·
05	汚水処理世帯の普及率 (%)	成果	-	44.3	<del>-</del> ★- (横ばい)	-	

#### 住みやすい環境と安全なまちづくり 政策 02

#### 自然環境の保全 施策 03

# 施策のプロフィール

### 施策の対象

- ・市民・事業者 ・ボランティア団体 ・N P O法人

#### 施策の意図

・市民や企業による自然環境保護の取組や地球に負荷を与えない行動が定着化し、市の豊かな自然環境が保全されています。

# 施策の成果状況と評価

打 模	自然環境の満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【環境保全課】	%	77.5	-	80.5	80	<del>               </del>
部	アンケート結果が一因と思われます。		(%) 100 80 60 40 20	基 H30 R01	R02 R03	R04	対前年度 - 達成 状況 (達成)

# (基本事業 01 自然環境保全活動の推進

基本事業 02 自然環境取組意識の向上

(基本事業 03 バイオマスタウン構想の推進

国本事業 04 再生可能エネルギー対策の推進

基本事業 05 汚水処理の推進

基本事業01 自然環境保全活動の推進

查	本事業						
<b></b>	自然環境保全活動に参加している団体数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
不	【環境保全課】	団体	29	-	33	29	*
		(団体)					(向上)
音	< 状況 > 令和元年度の自然環境保全活動に参加している団体数は33団体で、基準値と比較して4団体増加し、めざそう値を達成しています。 マリス   マリ	35 30 25 20 15		-		-	対前年度
ſĩ	引き続き環境活動への参加を進めていきます。	10 — 5 —					達成状況
			基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(達成)

基本事業03 バイオマスタウン構想の推進

-	_							
指標		バイオマスに関する取組の事業数(累計)		基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	票	【農林水産課】	件	8	-	8	9	*
			(件)	-		-	-	(横ばい)
-	評	<状況> 令和元年度のバイオマスに関する取組みの事業数は8件で、基準値 を維持しています。 <原因> 想定していたよりも事業構築に時間を要したため、めざそう値を達	8 6	<b>4</b>				対 前年度 -
1	西	成できませんでした。	2		70.	С 4		達成状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(中)

基本事業04 再生可能エネルギー対策の推進

抖材	市の事務事業により発生する二酸化炭素の量	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	めざそう値 (R04)	対 基準値
村	【環境保全課】	tC02	5,366	-	4,772	5,366	*
		(tCO2)					(向上)
許	< 状況 > 令和元年度の市の事務事業により発生する二酸化炭素の量は4,772t CO2で、基準値と比較して594tCO2減少し、めざそう値を達成してい ます。 < 原因 >	6, 00 4, 00	*-	*		-	対 前年度
ſī	二酸化炭素の削減を図るため、照明のLED化や再生可能エネルギー	2, 00	0				達成状況
			0 <u>基</u>	H30 R01	R02 R03	R04	<b>当</b> (達成)

基本事業05 汚水処理の推進

_=		ヤチ未♡ パルセキッド性						
<b></b>	- 1	汚水処理世帯の普及率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	票	【環境保全課】	%	43	-	44.3	44	*
			(%)					(横ばい)
亩	¥	<状況>令和元年度汚水処理世帯の普及率は44.3%で、基準値と比較し1.3ポイント増加し、めざそう値を達成しています。(補助基数 59基) <原因>単独浄化槽やくみ取り便槽の老朽化に伴い合併浄化槽への転換が多く見受けられます。	50 40 30 20				-	対 前年度 -
ſ	西		10					達成状況
			٥٢	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

# 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

## 施策 04 上水道の充実

# 施策を取り巻く環境変化と課題

飲用水を個人用井戸に依存している世帯が多く、上水道への転換には費用がかかるため給水戸数は伸び悩んでいます。
水道事業の対象区域外や水道の本管が付近にない地区の一部で地下水の汚染が懸念されています。
県より、県内水道の統合・広域化の当面の考え方」が公表され、県は広域自治体として広域的な水源の確保及び水道用水供給事業を担い、市町村は、基礎自治体として末端給水事業を担うことを基本とする考えが示されました。
県営水道と九十九里地域水道企業団との統合を目指した協議が開始され、併せて未端給水事業体(長生郡市広域市町村圏組合、八匝水道企業団、山武市市営水道、山武郡市広域水道企業団、による「県内水道の成・広域化の進め方に係る九十九里地域水道事業体会議」を設置し協議していく必要があります。

施策の成果指標

NUDIC 1-NOTCIA INC						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
給水戸数 「市営水道】 (戸)	成果	ı	2,799	<b>☆</b> (横ばい)	ı	
給水戸数 広域水道】(戸)	成果	•	11,003	<b>☆</b> (横ばい)	ı	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	漏水事故件数【市営水道】(件)	成果		0	<b>学</b> (向上)	ı	
01	漏水事故件数【広域水道】(件)	成果	•	26	<b>※</b> (向上)	ı	
02	水質の苦情件数 「市営水道」 (件)	成果	-	0	<b>☆</b> (横ばい)	ı	
02	水質の苦情件数 広域水道 】(件)	成果		27	<b>→</b> (低下)	-	
03	応急給水資機材の備蓄数 「市営水道】 (袋)	代替	-	2,500	<b>☆</b> (向上)	-	
03	応急給水資機材の備蓄数 広域水道 】袋)	代替		6,000	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
04	経常収支比率 情営水道】(%)	成果	-	115.5	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
04	有収率 「市営水道】 (%)	成果	-	92.2	<b>公</b> (横ばい)	ı	
04	経常収支比率 広域水道】(%)	成果	-	107.51	<b>-</b> ⊁- (横ばい)	-	
04	有収率 広域水道】(%)	成果	-	87.7	<b>公</b> (横ばい)	-	

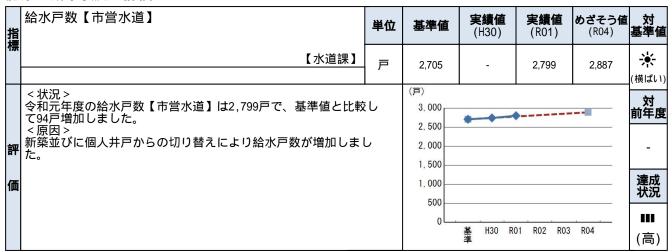
# 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

# 施策 04 上水道の充実

### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民	・市民が安全で安定した水道水を使うことができます。

### 施策の成果状況と評価



指標	給水戸数【広域水道】	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
12	【環境保全課】	戸	10,885	1	11,003	10,671	<b>-☆</b> - (横ばい)
評	< 状況 > 令和元年度の給水戸数【広域水道】は11,003戸で、基準値と比較で118戸増加し、めざそう値を達成しました。 < 原因 > 給水施設の改良工事を実施したことにより、加入者数が増加しまた。		(戸) 12,000 10,000 8,000 6,000	•	<b></b>		対 前年度 -
個			4, 000	基 H30 R 準	01 R02 R03	R04	達成状況 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# (基本事業 01 安定給水の確保

基本事業 02 水質の安全性の確保

基本事業 03 地震等の災害対策

基本事業 04 経営の健全化

基本事業01 安定給水の確保

=							
<b>非</b>	漏水事故件数【市営水道】 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【水道課】	件	2	-	0	0	*
		(件)					(向上)
i	< 状況 > 令和元年度の漏水事故件数【市営水道】は0件で、基準値と比較して2件減少し、めざそう値を達成しています。   < 原因 > 比較的新しい配水管のため、安定的に水道水を供給できています。	2	1	To a de la constitución de la co			対前年度
ſĩ		1-		/	1111		達成 状況
		_ا	基 H30 準	RO1 RO	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

基本事業01 安定給水の確保

3	¥	中于未()						
	指標	漏水事故件数【広域水道】	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	標	【環境保全課】	件	28	-	26	25	*
			(件)					(向上)
	評	< 状況 > 令和元年度の漏水事故件数【広域水道】は26件で、基準値と比較して2件減少しました。 <原因 > 配水管改良工事を計画的に実施し、漏水事故の減少に努めていま	30 25 20 15				-	対 前年度 -
,	価	す。	10 5 0					達成 状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(高)

基本事業02 水質の安全性の確保

指標	水質の苦情件数【市営水道】	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
楞	【水道課】	件	0	-	0	0	*
		(件)	-	-	-	-	(横ばい)
剖	< 状況 > 令和元年度の水質の苦情件数【市営水道】は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しています。  「<原因 > 水質の苦情は平成21年度以降なく、水質確認を日々行っており、全						対 前年度 -
佃	ての項目に対して基準を満たしています。						達成状況
		L.	基 H30 準	R01 R02	R03	RO4	<b>≟</b> (達成)

基本事業02 水質の安全性の確保

指標	水質の苦情件数【広域水道】	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
標	【環境保全課】	件	11	-	27	10	<b>→</b>
	<状況>	(件) 30		_			(低下) 対 前年度
	│令和元年度の水質の苦情件数【広域水道】は27件で、基準値と比較 │して16件増加しました。	25 — 20 —					前年度
評	<原因>  台風15号の災害で断水が発生した後台風16号接近に伴い、断水に備  えて多くの利用者が水道水の汲み置きを実施したため、にごり水が	15 10	<b>*</b>	/		_	達成
価		5		!			達成 状況
		0	基 H3 準	0 R01 R0	02 R03	R04	(低)

# 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

# 施策 05 防犯・交通安全の推進

# 施策を取り巻く環境変化と課題

「人口1,000人当たりの刑法犯認知件数」は減少傾向が継続しています。
刑法犯認知件数のうち75%は窃盗犯であり、多くは乗り物盗や車上荒らし等
の非侵入盗であることから、防犯カメラの設置やドライブレコーダーを搭載し
た青色パールカーを活用した防犯活動を推進します。
電話でde詐欺といっ
た持殊詐欺をはじめとする消費者トラブルの防止に努めます。
「人口1,000人当たりの交通事が発生件数」は減少傾向が継続しています。
平成29年に道路交通法が改正され、運転免許更新時の高齢者の認知機能の検査が強化されました。
山武市交通安全条例に基づく交通安全対策会議において策定された、交通安全計画に基づき施策を展開します。高齢者、幼児、児童・生徒及びドライバー等の対象者に応じた交通安全施策に取り組みます。

施策の成果指標

10214 - 1-102143 H 100						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
人口1,000人当たりの刑法犯認知件数 (件)	社会	ı	8	<b>※</b> (向上)	ı	
人口1,000人当たりの交通事故発生件数 (件)	成果	•	2.5	<b>学</b> (向上)	-	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	防犯活動を行っている区・自治会や団体の数(団体)	成果	1	29	<b>☆</b> (向上)	ı	
01	防犯活動を行っている協力者数 (人)	成果		613	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
02	登下校時における児童生徒の事件 事故件数 (件)	成果		3	<del>※</del> (向上)	-	
03	防犯灯設置要望対応率 (%)	成果		100	<del>-</del>   <del>×</del> (横ばい)	-	
03	防犯カメラの設置台数(累積)(台)	成果	-	39	<del>※</del> (向上)	-	
04	消費者相談件数(件)	代替	-	573	<b>介</b> (低下)	-	
04	消費者トラブルにあった市民の割合(%)	成果	-	3.4	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
05	1ヶ月当たりの交通安全啓発回数 (回)	成果	-	3	<del>-</del> ≱- (横ばい)	-	

# 政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

# 施策 05 防犯・交通安全の推進

# 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民	・安全で安心して住めるまちになっていきます。

# 施策の成果状況と評価

ž	人口1,000人当たりの刑法犯 指 標	認知件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
T		【市民課】	件	9	-	8	9	<del>※</del> (向上)
	と比較して1件減少し、めざそ   <原因 >   防犯メールによる犯罪・不審者   体、警察等の連携により、見守	プの刑法犯認知件数は8件で、基準う値を達成しています。 情報の提供や地域住民、防犯関係り、声かけ、パトロール等地道がメラの施設整備が犯罪抑止に貢献	系団 な防	(件) 10 8 6 4 2 0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	対前年度 違成況 違此(達成)

指模	人口1,000人当たりの交通事故発生件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
代	【市民課】	件	2.7	-	2.5	2.7	<del>※</del> (向上)
部	県でも、各世代別に交通安全教室を開催しており、段階的な交通。  県でも、各世代別に交通安全教室を開催しており、段階的なる。  全教育を実施していることが引き結ぎ効果を挙げているものと	幼 千葉 <b></b> 子安	(件) 3 3 2 2 2 1 1 0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	対年度 達成 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# (基本事業 01 防犯体制の充実

基本事業 02 児童・生徒の安全確保

(基本事業 03 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の整備

基本事業 04 消費者トラブルの防止

基本事業 05 交通安全意識の向上

### 基本事業01 防犯体制の充実

_	デーチ×○						
才木	防犯活動を行っている協力者数   	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	【市民課】	人	612	-	613	612	*
		(人)					(横ばい)
	通学路での不審者情報が、メール配信等を通して報告されており、	600 400	•			-	対前年度
ſ	│児童生徒の保護者のみならず、子どもたちの保護に協力をしてくれ │	200	基出	30 R01 F	R02 R03	R04	達成 状況 (達成)

基本事業03 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の整備

_=	THE TAKE TO THE TENT OF THE TE						
才	防犯灯設置要望対応率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【市民課】	%	100	-	100	100	*
		(%)					(横ばい)
	令和元年度の防犯灯設置要望対応率は100%で、基準値を維持し、 めざそう値を達成しています。 <原因> 「区からの設置要望に基づき、防犯灯の設置をしています。 設置基準を満たしている要望については全て対応しています。	120 100 80 60	•	•		-	対前年度
1		40 20 0	基形準	30 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 (達成)

基本事業03 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の整備

-	=							
指標		防犯カメラの設置台数(累積)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ľ	標	【市民課】	台	23	-	39	40	<b>*</b>
			(台)					(向上)
i	評	<状況> 令和元年度の防犯カメラの設置台数(累積)は39台で、基準値と比較して16台増加しています。 <原因> 条例に基づき、設置を進めています。	50 40 30				-	対前年度
1	価	、所に全りで、記さたのでは、また。 令和元年度の防犯力メラの設置とある。 が、施設管理用のため、老朽化したカメラ3台の撤去と新たな駐車 場に5台、主要道路(国道)に2台、駐輪場に1台設置しました。ま た、自治会が補助金を利用して2台設置しています。	10	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■■ (高)

基本事業05 交通安全意識の向上

_							
指標	1ヶ月当たりの交通安全啓発回数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
榜	【市民課】	回	3	-	3	3	*
		(回)					(横ばい)
部	<状況>    令和元年度の1ヵ月当たりの交通安全啓発回数は3回で、基準値を   維持し、後期めざそう値を達成しています。   <原因>    交通安全指導員が定期的に市内交差点での街頭監視を行い、交通安	3 - 2 - 2		-			対 前年度 -
個	全活動を実施していることが、基準値の維持につながっているもの	1					達成状況
		_ ا	基 H30 準	) R01 R0	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)





# 【政 策】

3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

# 【施 策】

- 3-1農林水産業の振興
- 3-2 商工業の振興と地域経済活性化
- 3-3 観光の振興

#### にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり 政策 03

#### 施策 農林水産業の振興 01

# 施策を取り巻く環境変化と課題

農業従事者の高齢化及び後継者不足、TPP問題や放射能事故の影響による 風評被害等、農業を取り巻く環境は厳しい状況です。近年の農作物価格の高騰 により、農業所得は増加していますが、価格が下落した場合、再び農業所得の 減少が懸念されます。 地域の中心的担い手である認定農業者の増加及び新規就農者の育成を図り、 効率的農業の推進や補助事業等の積極的活用によるコスト削減を図ることにより、農業所得の向上を目指す必要があります。 農地中間管理事業を活用した農地集積・集約化、耕作放棄地の解消及び農地 基盤整備事業を活用し優良農地化を図り、効率的かつ生産性の高い農業を目指 す必要があります。 地域の特産であるサンブスギは、担い手不足や木材価格の低迷により、管理 が行き届かない森林が多く、森林の荒廃が課題となっています。その中で令和 元年房総半島台風により被害を受けた森林の復旧は急務である。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

NUDIC 1-NOTCIA INC						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
農業所得(百万円)	成果	ı	595	<b>卡</b> 低下)	-	
森林整備年間実施面積 (累計 )(ha)	成果	-	289.76	<b>学</b> (向上)	-	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	耕作面積 (ha)	成果	ı	2,915	<b>→</b> (横ばい)	-	
01	家畜伝染病発生件数(酪農、養豚、養鶏)(件)	成果	1	0	<del>-</del> ★- (横ばい)	-	
02	認定農業者数 (人 )	成果	1	364	<b>※</b> (向上)	-	
02	青年等就農計画認定者数 (人 )	成果		6	<del>※</del> (向上)	-	
03	農地中間管理集積面積 (ha)	成果	-	311.2	<del>※</del> (向上)	-	
04	産地化 Uた品目の作付面積 (ha)	成果		396.8	<b>会</b> (横ばい)	-	
04	GAP等による取組人数 (人 )	成果		1,216	(横ばい)	-	
05	国営、県営等の有利な補助制度を活用 した農業基盤整備の事業完了数 箇所 )	成果	ı	4	<del>↓</del> (横ばい)	-	
06	森林整備事業年間実施箇所数 (箇所 )	成果	-	41	<b>※</b> (向上)	-	
06	市補助制度を活用し 搬出された木材量 (t)	成果	-	1,700	<del>※</del> (向上)	-	

#### にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり 政策 03

#### 施策 01 農林水産業の振興

# 施策のプロフィール

# <b>C</b>
施策の対象
・農林水産業従事者

### 施策の意図

- ・農業経営が安定し、所得額が増えます。 ・荒廃した森林が再生します。

# 施策の成果状況と評価

指標	農業所得	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
仿	【農林水産課】	百万円	1,393	-	595	1,599	<del>介</del> (低下)
評	< 状況 > 令和元年度の農業所得は595百万円で、基準値と比較して798百元減少しました。 < 原因 > 令和元年9月の台風被害の影響による収穫の減少や設備復旧等にする経費の増加により、農業所得が減少したものと考えられます。		2,000			対前年度	
佃			500	基 H30 R0	R04	<b>達成</b> 状況 ■ (低)	

指標	森林整備年間実施面積(累計)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
悰	【農林水産課】	h a	237.72	-	289.76	297.12	<del>                                    </del>
評価	< 状況 > 令和元年度の森林整備年間実施面積(累計)は289.76haで、基準と比較して46.04ha増加しました。 < 原因 > 下刈などを実施する造林支援事業の事業面積が拡大したことで森林整備面積が増えています。 (実施事業) 造林支援事業 県単森林整備事業 サンプスギギ生・資源循環促進事業		(h a) 300 250 200 150 100 50 0	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況 ■■■ (高)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# 基本事業01経営の安定化の推進基本事業02担い手の育成・支援

(基本事業 03 農地の利用集積の推進

基本事業 04 農産物の付加価値向上と販路の拡大

(基本事業 05 農業基盤整備の推進

基本事業 06 森林再生の推進

### 基本事業01 経営の安定化の推進

=								
指標	耕作面積	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値	
標	【農林水産課】	h a	2,902.8	-	2,915	2,902.8	*	
		(ha)					(横ばい	
	<状況> 令和元年度の耕作面積は2,915haで、基準値と比較して12.2ha増加	3, 000 2, 500						
±π	し、めざそう値を達成しています。	2, 000						
評	< 原因 >  農地の集積・集約化による営農の効率化や農業経営者への支援を図	1, 50	0				-	
_	ることにより、耕作面積を維持することができたものと考えられま	1, 00	0				達成状況	
価	す。		0				状况	
			۰ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	H30 R01	R02 R03	R04	12.0	
			基準	iiou kui	NUZ KUS	NU4	(達成)	

基本事業02 担い手の育成・支援

1	認定農業者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	【農林水産課】		344	-	364	389	*
		(人)				-	(向上)
i	< 状況 > 令和元年度の認定農業者数は364人で、基準値と比較して20人増加しました。 < 原因 > 市の担い手として、農業用機械購入及び施設整備に要する経費に対	300 - 200 -	B4			-	対 前年度 -
1	する市独自の助成制度を活用する等、規模拡大を目指す経営体が新 たに認定を希望したため、認定農業者が増加したものと考えられま す。	100					達成状況
		0.5	基H	30 R01 R	02 R03	R04	<b>■■</b> (中)

基本事業03 農地の利用集積の推進

打材	農地中間管理集積面積	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
格	【農林水産課】		111	-	311.2	281	*
		(h a)					(向上)
iii.	< 状況 > 令和元年度の農地中間管理集積面積は311.2haで、基準値と比較し て200.2ha増加し、めざそう値を達成しています。 「<原因 > 早船・寺崎及び島地区での農地の集積・集約化が推進されたことが	350 300 250 200					対前年度
ſī	主な要因です。その他の地域でも担い手や地権者に本制度の趣旨が	100 50 0	**	20 001	D00 D00	D04	達成状況
			基 H:	30 R01 R	102 R03	R04	— (達成)

=							
抖材	市補助制度を活用し、搬出された木材量 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
不	【農林水産課】	t	476.2	-	1,700	1,400	*
		(t)					(向上)
	木材流通システムの定着化により台風被害の森林を整備する山林所	2, 00 1, 50 1, 00	00	1		_	対前年度
ſĩ	有者からの搬出量増加や新たに森林経営計画対象林において発生した間伐材などの買取価格の一部を補助したことにより搬出量が増加しました。	50	0	H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 (達成)
			基準	H30 R01	R02 R03	R04	1

#### にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり 政策 03

#### 施策 商工業の振興と地域経済活性化 02

# 施策を取り巻く環境変化と課題

郊外型の大・中規模小売店舗等が進出し、既存小売店に大きな影響を及ぼすとともに、後継者不足も相まって、旧来の商店街では空き店舗が多数発生しています。地域ならではの魅力を高める取り組みを通じて、商店街の連携強化とまちの活性化を図ることが求められています。
山武市中小企業振興基本条例(平成30年4月1日施行)に基づき、地元中小企業の育成と長期的な安定成長を図るための施策を推進します。
市商工会を通じた支援策を継続的に行うとともに、人口減少や急激な社会環境の変化に対応できる、レジリエンスな地域経済の実現に向けた「エコノミックガーデニング」の推進により、地元企業が長生きして繁栄するビジネス環境の構築に取り組みます。
現在、検討が進められている成田空港の機能強化に併せて、他団体との連携を強化し、空港の発展を市の発展に結びつける取組を推進する必要があります。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
法人市民税額 (百万円)	社会		405	<del>※</del> (向上)	-	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市内で日用品や食料品を買う市民の割合(%)	成果	ı	70.7	(横ばい)	ı	
02	黒字化している事業所割合(法人税割を納めている事業 所数)%)	成果	1	41.8	<b>令</b> (低下)	ı	
02	新規法人登録件数 (件)	社会	,	67	<b>◆</b> (低下)	-	
02	支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数 (社)	社会		163	<del>※</del> (向上)	-	
03	市内事業所数(社)	成果	-	-		-	
03	市内従業者数 (人 )	社会	-	-		-	
04	成田空港周辺自治体としての取組件数(件)	代替	-	7	<del>-≱-</del> (横ばい)	-	
04	成田空港関連の市内従業員数 (人 )	社会	-	-		-	

#### にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり 政策 03

#### 施策 商工業の振興と地域経済活性化 02

# 施策のプロフィール

# 施策の対象

- ・市民 ・商工会 ・商工業者

### 施策の意図

・地域経済が活性化されます。

# 施策の成果状況と評価

指標	法人市民税額	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
楞	【わがまち活性課】	百万円	349	-	405	297	<del>※</del> (向上)
評価	< 状況 > 令和元年度の法人市民税調定額は、405百万円(うち均等割130円、法人税割275百万円)で、基準値と比較して56百万円増加しめざそう値を達成しています。 < 原因 > 令和元年度の法人市民税の調定件数は1,716件で、前年度に比べ件増加となっており、平成29~30年の経済情勢が安定していたが要因と考えられます。	, 316	(百万円) 500 400 300 200 100	± H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況 (達成)

# 基本事業 01 市内消費の向上

基本事業 02 経営体の体質強化・育成

基本事業 03 企業立地と企業定着による雇用の推進

基本事業 04 成田空港経済圏の形成

基本事業01 市内消費の向上

3	举:	<b>や手耒∪・巾内内員の門上</b>					_	
指標		市内で日用品や食料品を買う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	i 対 基準値
1	漂	【わがまち活性課】	%	71.1	-	70.7	72	ය
ı			(%)					(横ばい)
•	評	< 状況 > 令和元年度の市内で日用品や食料品を買う市民の割合は70.7%で、基準値と比べ0.4ポイント減少しました。 く原因 > 年代別では10歳代が活動範囲の関係から最も多く、活動範囲の広が	80 60 40	+			-	対前年度
	価	る20歳代から年代を追うごとに減少しています。65歳~は自動車の 運転等の問題から活動範囲が狭まるものと思われ増加に転じていま す。地区別では、山武・蓮沼が、成東・松尾に比べ10%以上が低 く、近隣市町のスーパー等の利用が多いものと思われます。	20	基 H3	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)

基本事業02 経営体の体質強化・育成

3	¥	个字来02 起台件以件员进门。月成						
	指標	黒字化している事業所割合(法人税割を納めている事業所数)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	票	【わがまち活性課】	%	55	-	41.8	60.3	<b>→</b>
			(%)					(低下)
-	評	< 状況 > 令和元年度の黒字化している事業所割合(法人税割を収めている事業所数)は41.8%で、基準値と比較して13.2ポイント減少しました。 <原因 >	60 40	<u></u>			-	対 前年度
1	面	納税事業所自体の件数は3件増加しておりますが、課税対象年度の 経済情勢に大きな動きはなく、同水準で推移していることが伺えま す。エコノミックガーデニング推進事業についても、地域経済に大 きな影響を与えるまでには至っていない状況です。	20	基 H3	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業02 経営体の体質強化・育成

=	ETFRUZ MEDITOPIQUE PIX						
ŧ	支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数 <b>旨</b> 票	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	<b>漂</b> 【わがまち活性課】	社	115	-	163	214	*
		(社)					(向上)
1	< 状況 > 令和元年度支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数は163社で、基準値と比較して48社増加しました。 マ 「	250 200 150					対 前年度 -
1	ほか、商工会斡旋分の公庫融資も36件(前年度比10件増)となって あり各制度を活用した投資活動が活発化しています。	50					達成状況
		01	基H	30 R01 F	R02 R03	R04	<b>■■</b> (中)

基本事業04 成田空港経済圏の形成

=	=:	中于未○* 况山土/C.胜历邑V///从						
ŧ	旨票	成田空港周辺自治体としての取組件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	票	【企画政策課】	件	7	-	7	9	*
			(件)					(横ばい)
i	平	<状況> 令和元年度の成田空港周辺自治体としての取組件数は7件で、基準値を維持しています。 <原因> 取組みの内訳は、航空人材養成のための事業が4件(基準値5	8 6	<b>*</b>				対前年度
ſ	画	件)、グローバルキャリア教育実施事業が3件(基準値2件)です。成田空港南側の芝山町、多古町、横芝光町と協同し、各市町で特色のある取組みを実施しています。	2 0	基 H3	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)
ſ	画	件)、グローバルキャリア教育実施事業が3件(基準値2件)で す。成田空港南側の芝山町、多古町、横芝光町と協同し、各市町で	2 0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03		3 R04

# 政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

## 施策 03 観光の振興

# 施策を取り巻く環境変化と課題

国内外問わず、近年のトレンドは「団体」から「個人」へ、「物見遊山型」から「体験型」観光へと変化しています。また、宿泊者数は、平成27年の91、1 63人をピークに減少しており、魅力あるイベントの開催、ニーズに合った観光メニューや滞在時間の長時間化を見据えた、観光ルートの造成が要です。東日本大震災後に激減した海水浴客数は、上が15人まで達しましたが、近年の気候変動の影響もあり、震災前の約半数に留まっています。リカで、近日ののある本海で、海水が場において、単位の海水浴場においてもつラッグの取得を目指すとともで、ファップを図ります。また、サーフィンやピーチスポーツ等、ターの利用を促進します。

NPO法人山武市観光協会ホームページやツイッター等のSNSを活用し、若年層に向けた観光情報発信を行います。また、電話や来訪での対応窓口である成東駅前観光案内所で、適切な案内が行われるように努めます。

施策の成果指標

NUNICO INC						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
年間観光客入込数 (人 )	成果	1	1,916,018	<b>十</b> (低下)	-	
年間宿泊観光客数 (人 )	成果	-	80,531	<b>会</b> (横ばい)	-	

# 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	イベントの来場者数 (人 )	成果	ı	5,400	<b>十</b> (低下)	ı	
01	広域(県) 民間事業者との連携事業数(件)	成果	-	12	<b>→</b> (低下)	-	
01	体験型観光客数 (人 )	成果		284,076	(横ばい)	-	
02	観光施設(海水浴場)の利用者数 (人 )	成果		69,000	<b>→</b> (低下)	-	
02	観光施設の維持管理上の不具合件数 (件)	成果	-	0	<del>※</del> (向上)	-	
03	観光案内所利用件数 (件 )	成果	-	6,670	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	観光協会HP等の閲覧数 (人 )	成果	-	46,945	<del>※</del> (向上)	-	

# 政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

# 施策 03 観光の振興

# 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・観光客・市民	・観光客が増加し、市の魅力が高まります。

# 施策の成果状況と評価

指標	年間観光客入込数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
標	【わがまち活性課】	人	2,030,557	-	1,916,018	2,081,000	<b>†</b>
評価	< 状況 > 令和元年度の年間観光客入込数は1,916,018人で、基準値と比較14,539人の減少しました。 < 原因 > 夏季の天候不順で海水浴場入込数が減少した上に、台風によりサマーカーニバルや産業まつりの中止、観光施設が被害を受けるが天候要因が大きな原因となっています。しかし、今後は夏季観けではなく、通年観光資源の更なる掘り起こしを行い、ターゲーを絞ったPR活動を実施していきます。	ナ など 光だ	(人) 2,500,000 2,000,000 1,500,000 500,000	0	R01 R02 R0		(低下) 対 前年度 - 達成 状況 【低)

指標	年間宿泊観光客数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
信	【わがまち活性課】	人	82,019	-	80,531	82,800	(横ばい)
評価	< 状況> 令和元年度の年間宿泊者数は80,531人で、基準値と比較して1,4人の減少しました。 〈原因> 調査対象の宿泊施設が廃業等で5軒減少しており、前年比5,894の減少となっています。しかし、キャンプ場は順調に推移し、自比2,612人の増加となっています。事業者の減少に加え、合宿客ど団体客から個人客へ推移していると考えられます。今後は、構協会と宿泊組合と連携し、サービス向上や適切な観光PRに努めます。	人 前年  な	(人) 100,000 80,000 60,000 40,000 20,000	基 H30 準	R01 R02 R03		対 前年度 - 達成 状況

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# (基本事業 01 魅力ある観光事業の推進

# 基本事業 02 海岸を活用した観光推進

基本事業 03 観光情報の発信

## 基本事業01 魅力ある観光事業の推進

7	李	<b>〜 十字乗∪ ・ がりのる観兀争乗り推進</b>						
	指標	イベントの来場者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	標	【わがまち活性課】	人	26,000	-	5,400	27,300	4
ı			(人)					(低下)
	評	<状況> 令和元年度のイベント来場者数は5,400人とで、基準値と比較して2 0,600人減少しました。 <原因> 台風6号によりサマーカーニバルが、台風15号及び19号の被害対応	30, 0 25, 0 20, 0 15, 0	00			-	対 前年度 -
	価	のため産業まつり及びエコキャンドルが中止となりました。サマー	10, 0 5, 0	00				達成状況
ı				基準	H30 R01	R02 R03	R04	(低)

基本事業01 魅力ある観光事業の推進

- 2	<b>E</b> .,,	↑・テス♡   10/10/00 成パロテス・ジェルニ						
1	指漂	体験型観光客数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	票	【わがまち活性課】	人	285,510	-	284,076	292,500	ග
			(人)					(横ばい)
		<状況> 令和元年度の体験型観光客数は284,076人で、基準値と比較し1,434	300. 250.	-	-			対 前年度
į	Ŧ	人減少しました。   <原因 >	200				<u> </u>	-
-	`	ハイシーズンには、どのいちご園も午前中で満員になっている状況		000				
4	·#i	で、対前年比は3,138人の増加となっています。めざそう値まで8,4 24人という数値であり、今後は、昨年度末に実施したアンケート結	23355000	000				達成 状況
1	Щ	果を参考に、観光協会、成東観光苺組合と連携し、PRするよう努め	50,	000				
		ます。		基準	H30 R01	R02 R03	R04	
				準				(高)

基本事業02 海岸を活用した観光推進

-	=							
1	指標	観光施設(海水浴場)の利用者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	
1	宗	【わがまち活性課】	人	93,087	-	69,000	95,000	<b>}</b>
			(人)					(低下)
1	評	< 状況 > 令和元年度の海水浴場の利用者数は69,000人で、基準値と比較して24,087人減少しました。 < 原因 > の名様化表 をおおればれることを A TRICATE IN A	80.	000				対前年度
1	価	レジャーの多様化で、海水浴離れが進んでいることと、今期は特に 週末の天候に恵まれず大幅な減少となったことが原因です。天候に 左右される海水浴ですが、PRの時期を前年の冬季に行うなど、年間 を通じたリピーターを増やす対策が必要です。		000	· ·			達成状況
				基準	H30 R01	R02 R03	R04	(低)

基本事業03 観光情報の発信

- 2							
1	観光協会HP等の閲覧数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【わがまち活性課】	人	2,294	-	46,945	7,200	<b>*</b> ÷
		(人)					(向上)
1	< 状況 > 令和元年度の観光協会HP等の閲覧数は、46,945人(HP:41,541人、 ツイッター:2,257人、FB:3,147人)で、基準値と比較して44,651 【人増加し、めざそう値を達成しています。 <原因 >	50, 0 40, 0 30, 0	000	1			対前年度
1	平成30年10月にHPの全面リニューアルを行い、効果的に運用してい	10, 0		H30 R01	R02 R03	R04	達成状況 (達成)





# 【政 策】

4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

# 【施 策】

- 4-1 高齢者福祉の充実
- 4-2 障がい者(児)福祉の充実
- 4-3 健康づくりの推進
- 4-4 子育ての支援
- 4-5 地域福祉の充実とセーフティーネットの推進

# 政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

# 施策 01 高齢者福祉の充実

# 施策を取り巻く環境変化と課題

施策の成果指標

407K - 7 - 7-707KJ H 140									
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載			
65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活している高齢者の割合 (%)	成果	ı	96.2	(横ばい)	-				
介護保険サービスの満足度(%)	成果	-	79.1	<b>☆</b> (横ばい)	-				

# 基本事業の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載		
社会参加している高齢者の割合(%)	成果		30.7	) 山子	1			
生きがいを持っている高齢者の割合(%)	成果	-	45	<del>-</del> ≱- (横ばい)	-			
新規要支援 新規要介護認定者の割合 (%)	成果	-	13.2	<del>-</del> ≱- (横ばい)	-			
介護給付サービス利用率 (居宅)(%)	成果	-	58.1	<b>ら</b> (横ばい)	-			
施設入所待機率 (%)	成果	-	9.4	<b>→</b> (横ばい)	-			
相談先がある高齢者の割合(%)	成果	-	79.7	<del>-</del>  ★- (横ばい)	-			
介護保険料収納率(現年度)(%)	成果	-	98.43	<b>→</b> (横ばい)	-			
	社会参加している高齢者の割合(%) 生きがいを持っている高齢者の割合(%) 新規要支援新規要介護認定者の割合(%) 介護給付サービス利用率(居宅)(%) 施設入所待機率(%) 相談先がある高齢者の割合(%)	社会参加している高齢者の割合(%) 成果 生きがいを持っている高齢者の割合(%) 成果 新規要支援 新規要介護認定者の割合(%) 成果 介護給付サービス利用率(居宅)(%) 成果 施設入所待機率(%) 相談先がある高齢者の割合(%) 成果	社会参加している高齢者の割合(%)       成果       -         生きがいを持っている高齢者の割合(%)       成果       -         新規要支援(新規要介護認定者の割合(%))       成果       -         介護給付サービス利用率(居宅)(%)       成果       -         施設入所待機率(%)       成果       -         相談先がある高齢者の割合(%)       成果       -	社会参加している高齢者の割合(%) 成果 - 30.7 生きがいを持っている高齢者の割合(%) 成果 - 45 新規要支援 新規要介護認定者の割合(%) 成果 - 13.2 介護給付サービス利用率(居宅)(%) 成果 - 58.1 施設入所待機率(%) 成果 - 9.4 相談先がある高齢者の割合(%) 成果 - 79.7	AC	A		

# 政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

# 施策 01 高齢者福祉の充実

# 施策のプロフィール

### 施策の対象

- ・65歳以上の市民(高齢者)
- ・介護保険被保険者(40歳以上)

### 施策の意図

・高齢者が健康を保ちながら生活でき、自分の健康状態にあった福祉サービスが受けられ、地域生活が送れます。

# 施策の成果状況と評価

指標		65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活し ている高齢者の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	<b>宗</b> -	【高齢者福祉課】	%	96.3	-	96.2	97	(横ばい)
	評	<状況> 令和元年度の65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに会している高齢者の割合は96.2%で、基準値と比較して0.1ポイン減少しました。 <原因> <原因> 介護予防や健康教室(運動教室)などの実施により、昨年度と利用で割合を維持しています。(令和2年3月末現在:第1号被保険利12人、認定者342人)	ゲト 既ね	(%) 100 80 60 40 20 0	基 H30 R01	1 R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

指標	介護保険サービスの満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	【高齢者福祉課】	%	75.6	-	79.1	77	<b>-≱-</b> (横ばい)
部	< 状況 > 令和元年度の介護保険サービスの満足度は79.1%で、基準値として3.5ポイント増加し、めざそう値を達成しています。 < 原因 > 介護保険制度や介護サービスについて周知を続けてきた結果と ます。引き続きわかりやすい説明、周知に努めます。		(%) 80 60 40				
個			20	H30 R01	R02 R03	R04	達成状況 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

(基本事業 01 生きがいづくりと介護予防の推進

基本事業 02 介護サービス・日常生活の支援

(基本事業 03 安全・安心な生活への仕組みづくり

(基本事業 04 介護保険制度の安定的な運用

基本事業01 生きがいづくりと介護予防の推進

2	**	や手耒○  主さかいフトリと介護す的の推進						
	旨票	社会参加している高齢者の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	漂	【高齢者福祉課】	%	35.7	-	30.7	40	+
			(%)					(低下)
i	評	< 状況 > 令和元年度の社会参加している高齢者の割合は30.7%で、基準値と 比較して5ポイント減少しました。 <原因 > アンケート結果から、社会参加していない者の割合が前年度より2.	50 40 30 20	<b></b>	<u></u>		_	対 前年度 -
1	西	7%増加しています。令和元年に発生した大型台風や大雨、新型コロ	10	基 H3·	0 R01 R0	02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業01 生きがいづくりと介護予防の推進

Ī	新規要支援・新規要介護認定者の割合		単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対基準値
1	指標	【高齢者福祉課】	%	15.5	-	13.2	14	*
			(%)	<u> </u>			1	<b>/ 、</b> (横ばい)
	< 状況 > 令和元年の新規要支援・新規要介護認定者の割合は13.2 値と比較して2.3%減少し、めざそう値を達成していま < 原因 > 介護予防や健康教室の実施による成果と考えます。また	<b>f</b> .	20 15 10		<b>—</b>		-	対前年度
1	30年4月から更新申請に係る認定有効期間が最長36ヶ月	· (従前は24	5			r T		達成状況
				基 H30 準	0 R01 R0	02 R03 I	R04	<del>  </del> (達成

基本事業02 介護サービス・日常生活の支援

<b>指模</b>	│介護給付サービス利用率(居宅) ┃ ┃	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
棳	【高齢者福祉課】	%	59.2	-	58.1	60	ය
		(%)	-	-	-	-	(横ばい)
育	< 状況 > 令和元年度の介護給付サービス利用率(居宅)は58.1%で、基準値 と比較して1.1%減少しました。 マ原因 > 要介護認定者2,103人のうち、居宅サービスを利用された方は1,222	80 60 40	•			-	対 前年度 -
Ø	人となっています。前年度と比較して、居宅サービスを利用された	20	基 H3 進	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況

基本事業03 安全・安心な生活への仕組みづくり

指標	相談先がある高齢者の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
榜	【高齢者福祉課】	%	76.2	-	79.7	78.4	*
		(%)					(横ばい)
部	<状況> 令和元年度の相談先がある高齢者の割合は79.7%で、基準値と比較 して、3.5ポイント増加し、めざそう値を達成しました。	80 60				-	対 前年度
征	「ある」との回答は女性に多く性差が見られます。相談する相手 は、男女とも主に家族や友人・知人への割合が高くなっています。	40 – 20 –					達成状況
		ا ٥٦	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(中)

#### 政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

#### 施策 02 障がい者(児)福祉の充実

# 施策を取り巻く環境変化と課題

平成23年8月に「障害者基本法」が改正され、障がいの有無に関わらず人格と個性を尊重する共生社会の実現を目指すことが掲げられています。加えて、平成30年4月には「障害者総合支援法」が改正され、障がい者自ら望む地域生活を営む事ができるよう生活と就労に関する支援の一層の充実を図るととに、児童衛ニとのの支援の充実を図ることとしています。障がい者の高齢化や「親亡き後」を見据え、るサービス提供体制の構築として、増減生活支援拠点の整備が必要とされています。精神障がい者が、出か、地域の助け合い・教育が包括的に確保された、保健所圏域における「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築が求められています。

施策の成果指標

10214 - 1-102143 H 101						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
障がいの特性及びその環境に応じて、就業している障がい者の割合 (分母から重度障がい者を除く)(%)	成果	ı	2	<b>☆</b> (横ばい)	-	
在宅で生活している障がい者の割合(%)	代替	-	97.3	<b>☆</b> (横ばい)	-	

## 基本事業の成果指標

	-3-21 -7-7-7-1-1M						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自立支援給付サービスの利用者数 (人)	成果		588	<b>☆</b> (向上)	-	
02	地域生活支援事業(地域活動支援センター型)での相談件数(件)	代替	-	1,833	<del>※</del> (向上)	-	
02	医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい 者数(人)	代替		1,568	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	就労移行支援事業等のサービスを利用した障がい者数( 人)	成果	-	26	<del>※</del> (向上)	-	
03	社会参加促進事業サービス利用割合(%)	成果	-	48.3	<del>※</del> (向上)	-	
04	就学前の障がい児通所支援の利用者数(人)	成果	-	52	<del>※</del> (向上)	-	
04	切れ目のない支援のための情報共有及び仕組み構築の協議回数 (回)	代替	-	2	<del>※</del> (向上)	-	

## 政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

## 施策 02 障がい者(児)福祉の充実

#### 施策のプロフィール

施策の対象
・障がい者等

#### 施策の意図

・障がい者(児)がその障がいの特性及び環境に応じて、地域で安心して自立し、社会参加できます。

#### 施策の成果状況と評価

ŧ	障がいの特性及びその環境に応じて、就業している障が 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ſ	<del>意</del> 【社会福祉課】	%	1.52	-	2	2.2	<b>☆</b> (横ばい)
	< ( 状況 > 令和元年度の障がいの特性及びその環境に応じて、就業していま者の割合(分母から重度障がい者を除く)は2%で、基準値を較して0.48ポイント増加しました。 < 原因 > 平成30年度は障害者を雇用する事業者が9事業所でしたが、今和元のでは14事業所に増えたため、就業割合が増加したものと考えます。	元	(%) 3 2 2 1 1 0	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

3	旨票	在宅で生活している障がい者の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	示	【社会福祉課】	%	97.2	-	97.3	97.4	<b>├</b> - (横ばい)
ŧ		< 状況 > 令和元年度の在宅で生活している障がい者の割合は97.3%で、 値と比較して0.1ポイント増加しました。 < 原因 > 生活訓練や居宅介護サービス等の利用促進に努めているため、も そう値に近い数値で成果を維持していると考えられます。		(%) 100 80 60	•			対 前年度 -
1	西			20	± H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 ■■■ (高)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### (基本事業 01 自立支援サービスの促進

基本事業 02 地域生活支援の基盤づくり

(基本事業 03 社会活動参加の促進

基本事業 04 児童発達支援の充実

#### 基本事業01 自立支援サービスの促進

=	中事来() 日立又抜り一ころの促進						
抖材	自立支援給付サービスの利用者数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
稰	【社会福祉課】	人	489	-	588	540	*
		(人)					(向上)
i	各種手帳交付の際、自立支援給付サービスの説明を行い、周知に努	400 - 200 -	•	<u>/</u>		-	対 前年度 - 成況
ſī		٥١	基出	30 R01 R	02 R03	R04	<b>状况</b> (達成)

基本事業02 地域生活支援の基盤づくり

-	Ŧ							
	指標	医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	票	【社会福祉課】	人	1,560	-	1,568	1,610	*
			(人)					(横ばい)
	評	< 状況 > 令和元年度の医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい 者数は1,568人で、基準値と比較して8人増加しました。 < 原因 > 自立支援医療(精神通院)受給者証発行者数と重度心身障害者福祉	2, 00 1, 50 1, 00	0	*			対 前年度
1	画	医療対象者数は、毎年、死亡、転出等により多少の増減が生じますが、全体的には増加傾向だと考えられます。	50	0				達成 状況
				基準	H30 R01	R02 R03	R04	■■ (中)

基本事業03 社会活動参加の促進

3	<u> </u>							
	指標	社会参加促進事業サービス利用割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	標	【社会福祉課】	%	58.7	-	48.3	70	*
			(%)					(向上)
1	評	< 状況 > 令和元年度の社会参加促進事業サービス利用割合は48.3%で、基準値と比較して10.4%減少しました。< < 原因 > 福祉タクシー利用助成事業の対象者が、福祉輸送サービスや乗合タ	80 60 40	~				対 前年度 -
1	価	クシーの利用など、障害者サービス以外のサービスを利用している ことにより利用割合が減少したと考えられます。	20					達成状況
			0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(低)

基本事業04 児童発達支援の充実

=							
指標	│切れ目のない支援のための情報共有及び仕組み構築の協議回数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
楞	【社会福祉課】		0	-	2	8	*
		(回)					(向上)
評	障がい児の情報共有をするシステムの構築のための会議を開催する	8 6 4					対 前年度 -
偛	予定でしたが、庁内関係部署と2回の協議の結果、新規システムの	2 0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

#### 政策 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 04

#### 施策 健康づくりの推進 03

# 施策を取り巻く環境変化と課題

がん、心臓病、脳卒中は市の死因の55.1%を占め、国民健康保険の疾病別医療費分析によると、その原因となる可能性が高い疾病の第1位は糖尿病、第2位は高血圧となっているため、生活習慣病の発症予防や重症化予防に対する対策を強化していく必要があります。
がんは及因順位であり、早期発見・早期治療のためには、がん検診受診率を向上させる必要があります。
市の自殺率(人口10万対)は、国、県と比較して高い状態が続いています。関係部署や関係機関と連携し、情報収集、情報共有を行い、個別支援につなげていくことが重要です。
市の子どものむし歯保有者数は、毎年県平均より高い状況にあるため、むし歯予防対策の充実に努める必要があります。
地域医療体制の方案に努める必要があります。
国民健康保険一人あたり総医療費を減少させるためには、特定健康診査事業の受診率を向上させる必要があります。検診結果を理解し、健康意識向上につながる啓発や相談の強化を図る必要があります。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
健康だと思う市民割合(%)	成果	ı	80.8	<b>※</b> (向上)	ı	
生活習慣病死亡率 (%)	成果	1	1		ı	

## 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	1人当たりの健康づくり取組項目数(全12項目中)(項目)	成果	ı	4	<b>☆</b> (向上)	-	
02	特定健康診査受診率 (%)	成果	1	40.1	<b>※</b> (向上)	-	
02	がん検診を年1回受けている市民の割合(%)	成果	ı	50.3	(横ばい)	-	
02	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合 (%)	成果		-		-	
03	乳幼児健診の受診率 (%)	成果	-	93.5	(横ばい)	-	
03	乳幼児健診の満足度 (%)	成果		95.1	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	幼児 (3歳)のむし歯保有者率(%)	成果		14.7	<del>-</del>   <del>×</del> (横ばい)	-	
04	地域医療体制の充足度 (%)	成果	1	58.6	<del>-</del> ★- (横ばい)	-	
05	1人当たりの総医療費 (円)	成果	-	340,123	<b>十</b> (低下)	-	
05	慢性腎不全、高血圧症、糖尿病の構成割合 (%)	成果	-	28.2		-	

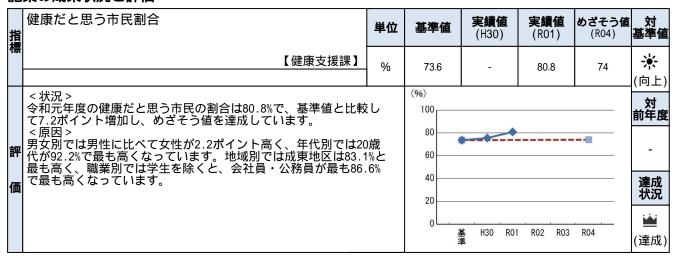
### 政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

#### 施策 03 健康づくりの推進

#### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民	・健康への意識が高まることにより、生活習慣病が減少し、健康な心身で生活を送り続けられます。

#### 施策の成果状況と評価



指標	生活習慣病死亡率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
竹	【健康支援課】	. %	55.1	-	-	55	
部	<状況> 令和元年度の生活習慣病死亡率は11月以降に公表されるため未足す。 <原因>	定で	60				対 前年度 -
偛			20 0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### 基本事業 01 心身の健康管理の充実

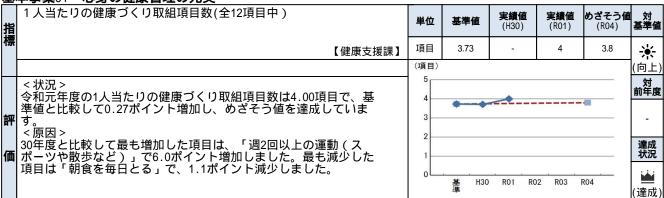
基本事業 02 健診の受診率向上と生活習慣の改善

基本事業 03 母子の健康管理

基本事業 04 医療体制の充実

基本事業 05 国民健康保険医療費の改善

基本事業01 心身の健康管理の充実



基本事業02 健診の受診率向上と生活習慣の改善

2	6中字来02 姓的の文的平向上と土冶自良の以音						
4	特定健康診査受診率 <b>冒</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	<b>漂</b> 【国保年金課】	%	34.8	-	40.1	36.4	*
		(%)					(向上)
1	〈状況〉 令和元年度の特定健康診査受診率は40.1%で、基準値と比較して5. 3ポイント増加し、めざそう値を達成しています。 〈原因〉 人工知能(AI)によるデータ分析に基づき、受診勧奨を必要とする	50 40 30		<u> </u>		-	対前年度
1	大工和能(イイ)によるプーノがにはなって、 対象者の抽出及び対象者の特性に合わせた勧奨資材の送付を行うこ   とができ、全ての受診履歴の対象者において受診率は向上しまし   た。経年未受診者の受診者数は797人(受診率6.3%)で、受診率の   向上に大きく影響するとともに、通院を理由とした健診未受診者の   受診啓発につながりました。	10	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 (達成)

基本事業03 母子の健康管理

=							
才木	乳幼児健診の満足度 <b>重</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
Ť	【健康支援課】	%	94.3	-	95.1	94	*
		(%)					(横ばい)
i	< 状況 > 令和元年度の乳幼児健診の満足度は95.1%で、基準値と比較して0.8ポイント増加し、めざそう値を達成しました。	100 80 60	•				対前年度
ſ	応えられるように努めていることが考えられます。	20					達成状況
		01	基料	30 R01 R	R02 R03	R04	(達成)

基本事業04 医療体制の充実

	地域医療体制の充足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【健康支援課】	%	55.1	-	58.6	57	*
		(%)					(横ばい)
	<状況> 令和元年度の地域医療体制の充足度は58.6%で、基準値と比較して 3.5ポイント増加し、めざそう値を達成しています。	40					対 前年度
盲	診療科目別では、皮膚科、眼科、産婦人科の順で充足していないと 感じている市民の方が多くいます。さんむ医療センターでは、市民 が安心して暮らせる医療サービスの提供と安定した病院経営に努め	20					達成状況
	ていますが、医師不足により市民が必要と感じる診療を充足させる には厳しい状況にあります。	٥	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

#### だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 政策 04

#### 施策 子育ての支援 04

# 施策を取り巻く環境変化と課題

共働きやひとり親家庭の増加に伴い、子育て支援のニーズが多様化しています。また、未満児(3歳児未満)の保育の需要が増加しています。市では認定 では記述しています。では認定とは、多様なサービスへの体制づくりに努める必要

こども園化を推進するとともに、多様なリーに人への仲間フェッにのなったがあります。 子育てについての相談機関として「子育て世代包括支援センター(はぴねす)」等、相談機関の体制づくりを行っています。 市では、子どもの医療費助成の対象年齢を拡大しており、引き続き保護者の経済的な負担軽減を図っていく必要があります。 学童クラブは、利用者の増加に伴い小学校の余裕教室確保が課題となります。また、放課後子ども総合プランにより学童クラブと放課後子ども教室を一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策が課題となります。 若い世代を中心に、結婚・出産・子育ての希望が叶えられる環境づくりが必要になっています。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割合(%)	成果	ı	92.3	<b>会</b> (横ばい)	ı	
この地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割合(%)	成果	-	89.2	<b>介</b> (低下)	-	

基本事業の成果指標

4	・ 学来の以末11位						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	幼稚園 保育所・こども園の利用定員充足率 (%)	成果	-	87.9	<del>                                    </del>	-	
01	就学前保育 教育に関する保護者の満足度(%)	成果		94.6	<b>会</b> (横ばい)	-	
02	配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手がいる保護者の割合(%)	成果	1	99.3	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
02	育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合(%)	成果	1	87	<b>(横ばい)</b>	ı	
02	子どもの社会性の発達過程を知っている保護者の割合 (%)	成果	1	89.4%	<b>会</b> (横ばい)	1	
02	各種子育て相談延べ件数(件)	代替		4,280	<del>-</del> ⊁- (横ばい)	-	
03	子育ての経済的負担軽減に関するのべ受給者数 (人)	代替		74,865	(横ばい)	-	
03	ひとり親家庭の自立率 (%)	成果	ı	7.5	<del>-</del> ★- (横ばい)	ı	
04	児童虐待通告件数(件)	成果	-	71		-	
04	児童に関する措置件数(件)	成果	-	2		-	
05	学童クラブの定員充足率(%)	成果	-	80.9	<b>(横ばい)</b>	-	
06	出生者数(計画期間累計)(人)	成果	-	199	(横ばい)	-	
06	結婚する意欲のある独身者の割合(%)	成果	-	84.1	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	

#### だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 政策 04

## 施策 04 子育ての支援

#### 施策のプロフィール

### 施策の対象

・児童(0~18歳未満) ・子育て家庭

#### 施策の意図

安心して産む・育む等の子育て環境が整っているまちになっています。

#### 施策の成果状況と評価

指標		子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値	
	<b></b>	【子育て支援課】	%	93	-	92.3	93	(横ばい)	
計	令 92 <	・状況 > ネ和元年度の子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割ま 2.3%で、基準値と比較して0.7ポイント減少しました。 「原因 > 「型コロナウイルス感染症の影響により令和2年3月の乳幼児健調 で、で中止しましたが、指標値に変化は見られませんでした。		(%) 100 80 60					
ſĭ	6			20	基 H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)	

指標	この地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割 合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	【子育て支援課】	. %	94.4	-	89.2	94.4	(低下)
部		(%) 100 80 60 40 20					
			0	基 H30 R01	R02 R03	R04	(低)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### (基本事業 01 幼保機能の充実

基本事業 02 子育で不安の軽減

(基本事業 03 子育て家庭への援助

基本事業 04 こどもの人権の尊重

基本事業 05 学童保育の充実

基本事業 06 次世代育成に係る家族形成の支援

#### 基本事業01 幼保機能の充実

=	ET							
4	京 <b>指</b>	就学前保育・教育に関する保護者の満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	際	【子育て支援課】	%	96.9	-	94.6	97	S
			(%)					(横ばい)
	_	<状況>	100				-	対前年度
	4	令和元年度の就学前保育・教育に関する保護者の満足度は94.6%	80					前年度
	<u>_</u>  7	で、基準値と比較して2.3ポイント減少しました。	60					
1	砰 <	<原因> ◇和三年度は災害等により中止となる行車が多かったため行車に対						-
		令和元年度は災害等により中止となる行事が多かったため行事に対 する満足度は下がりましたが、施設環境、衛生対策などの項目の満	40					達成
1	面流	足度は向上しました。	20					達成 状況
1	2	<b>各施設において保育教諭、保育士、幼稚園教諭等が適切な対応を</b>	ا ا					
	1	_{すったことが満足度向上の原因と考えます。}		基H	30 R01 F	R02 R03	R04	
1				÷ <u>≠</u>				(中)

基本事業02 子育で不安の軽減

=	=	かず来02 丁月で小女の柱内						
į	指票	配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手がいる保護者 の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	漂	【子育て支援課】	%	99.2	-	99.3	99.2	*
			(%)					(横ばい)
		<状況> 令和元年度の配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手 がいる保護者の割合は99.3%で基準値と比べ0.1ポイント増加し、 目指そう値を達成しています。 <原因>	100 80 60	•	-			対前年度
1	画	前年度と比較して、地域・職場・子育てサークルなど身近な相談相 手が増えたことにより、相談相手がいない保護者が減少したことが 原因と考えられます。	20	# H	30 R01 F	02 R03	R04	達成状況
				基料	00 101 1	102 103	1104	(達成)

基本事業04 こどもの人権の尊重

-	学年()4 とことの人権の寺里						
抖材	児童虐待通告件数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
村	【子育て支援課】	件	62	-	71	-	
		(件)					
iid	< 状況 > 元年度の児童虐待通告件数は71件で、基準値と比較して9件増加しました。 マ < 原因 > 家庭児童相談室への令和元年度の相談・訪問延べ件数は2,278件	100 80 60	1	\			対前年度
ſī	┃で、相談内容も多岐にわたっています。地域や関係機関と連携を図	20	基出	30 R01 R	02 R03	R04	達成 状況

基本事業06 次世代育成に係る家族形成の支援

=	「「「「「「「「「」」」」」「「「「」」」「「」」「「」」「「」」「「」」「						
<b>非</b>	結婚する意欲のある独身者の割合 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
不	【企画政策課】	%	80.2	-	84.1	80	*
		(%)					(横ばい)
盲	< 状況 >	80 - 60 -				-	対 前年度 -
ſi	┃リ回答率が高く、元々意欲が高い10歳代20歳の回答数が1.75倍に ┃	20	基 准	30 R01 F	02 R03	R04	達成状況 (達成)

#### 政策 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 04

#### 施策 地域福祉の充実とセーフティーネットの推進 05

# 施策を取り巻く環境変化と課題

国では、社会的孤立や生活困窮等の問題も含め、子ども・高齢者・障がい者等。すべての人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現を目指した方向性を示しています。平成30年4月に「社会福祉法」が改正され、地域住民が自ら、地域の様々な分野にわたる生活課題を把握し、その解決に向けて各種支援機関と連携しながら活動するということが、地域福祉の理念として掲げられました。一人でも多くの市民が地域活動に参加することのできる仕組みを整備し、活動の活性化を図ることが必要とされています。生活保護受給者の増加に加え、非正規職員の労働者や低所得の給与収入者など、生活に困窮するリスクの高い層が増えています。生活保護受給者数は、高齢化の進展等の社会情勢から、今後も増加が見込まれます。生活保護受給者の自立に向けた、個々の状況に応じた適切な援助、指

エカト最支配自数は、高齢化の進展する社会情勢がら、ラ後も増加が完立なれます。生活保護受給者の自立に向けた、個々の状況に応じた適切な援助、指導が必要です。 公営住宅については、長寿命化や今後の在り方を検討しながら、施設管理を行っていきます。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

100714 47 1-707143 H 130						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合(%)	成果	1	22.6	<b>☆</b> (横ばい)	ı	
生活保護率(‰)	代替	-	8.32	<b>(</b> 横ばい)	-	

#### 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割合 (%)	成果	•	12.4	<b>→☆</b> (横ばい)	-	
01	福祉活動の市民活動団体の加入者数 (人 )	成果	-	1,478	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
02	社会福祉協議会で実施した事業への参加者数 (人)	成果	,	27,406	<b>→</b> (低下)	-	
02	民生委員児童委員の 1人当たりの年間活動日数 (日)	成果		94	<del>-</del>   <del>×</del> (横ばい)	-	
03	生活困窮者相談件数(件数)	成果	-	2,028	<del>※</del> (向上)	-	
04	自立による生活保護廃止件数(件)	成果	-	11	<del>※</del> (向上)	-	
05	公営住宅入居率 (%)	代替	-	90.2	(低下)	-	

#### 政策 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 04

#### 地域福祉の充実とセーフティーネットの推進 施策

#### 施策のプロフィール

#### 施策の対象

- ・市民
- ・生活困窮者

#### 施策の意図

- ・地域で相互扶助できていると思う市民が増加します。 ・市民が経済的に安定した生活が送れます。

#### 施策の成果状況と評価

指標	地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
仿	【社会福祉課】	. %	19	-	22.6	22	<b>-≱</b> - (横ばい)
部	< 状況 > 地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合は22.6%で、 準値に比べ3.6ポイント増加し、めざそう値を達成しています。 <原因 > 令和元年度は、台風15号、台風19号及び10月25日大雨の災害がでいる。 り、この災害時に相互扶助をできた市民がいたことが要因と思えます。		(%) 25 20 15				対前年度
佂			5 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成状況 (達成)

打模	生活保護率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
作表	【社会福祉課】	. ‰	7.61	-	8.32	11.19	<b>(</b> 横ばい)
計	一よる失業等により、高齢世帯、傷病世帯及び障がい者世帯が増加	労支 どに	(%) 12 10 8 6				対 前年度
A	向にあります。		4 2 0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成状況 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# 基本事業 01 地域福祉の担い手育成 基本事業 02 社会福祉機関・団体の充実 基本事業 03 生活困窮者自立支援の充実 基本事業 04 生活保護制度の適正な実施

基本事業01 地域福祉の担い手育成

基本事業 05 公営住宅の維持管理

2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
<b>井木</b>	地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割 合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【社会福祉課】	%	11.3	-	12.4	12	*
		(%)					(横ばい)
	< 状況 >	14 12 10 8	+	<u></u>		-	対前年度
ſi	令和元年度は、台風15号、台風19号及び10月25日大雨の災害があ	4 2 0	+ 110	0 001 0	00 000	D04	達成状況
			基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	— (達成)

基本事業01 地域福祉の担い手育成

3	<b>E</b>							
	指標	福祉活動の市民活動団体の加入者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	剽	【社会福祉課】	人	1,465	-	1,478	1,500	*
			(人)					(横ばい)
1	評	<状況> 令和元年度の福祉活動の市民活動団体の加入者数は1,478人で基準 値と比べ13人増加しました。 <原因> 団体数は100団体で前年度から10団体増加しておりますが、団体の	2, 00 1, 50 1, 00	0	-			対前年度
1	画	細分化によるものもあり、加入者数の増加は団体数の増加に比べ伸 びが少ないです。	50	0				達成 状況
				0 基 準	H30 R01	R02 R03	R04	<b>■■</b> (中)

基本事業02 社会福祉機関・団体の充実

4	8个字来V2 性女相性域例 图件V2儿关						
<b>非</b>	社会福祉協議会で実施した事業への参加者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【社会福祉課】	人	32,005	-	27,406	33,000	+
		(人)					(低下)
青		35, 0 30, 0 25, 0 20, 0	000				対前年度
ſĩ	令和元年度は、台風15号、台風19号及び10月25日大雨の災害があり、健康福祉まつり等の行事が中止となったことが大きな要因です。	15, 0 10, 0 5, 0	000				達成状況
			0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	(低)

基本事業04 生活保護制度の適正な実施

_=	・ 十字未()・ 工行体時間及い過工を大肥						
<b>非</b>	自立による生活保護廃止件数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【社会福祉課】	件	15	-	11	9	*
		(件)					(向上)
青	< 状況 > 令和元年度の自立による生活保護廃止件数は11件で、基準値と比較して4件減少しましたが、めざそう値は達成しました。  「<原因 > 主な原因としては、親類縁者の引取りにより廃止に至ったケースが	15 10	1				対前年度
ſĩ	増加しました。	5 –					達成状況
		ا ٥	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)





# 【政 策】

5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

# 【施 策】

- 5-1 学校教育の充実
- 5-2 生涯学習の推進
- 5-3 スポーツの振興
- 5-4 人権尊重のまちづくり

#### 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり 政策 05

#### 施策 学校教育の充実 01

# 施策を取り巻く環境変化と課題

少子化により児童・生徒数は今後も減少が見込まれます。「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画」に基づき、小学校の複式学級及び中学校

校の規模適正化・適正配置基本計画」に基づき、小学校の複式学級及び中学校の単学級の解消を図ります。
近年の教育課題として、経済格差から子どもの学ぶ意欲や学力の低下、規範意識や倫理観の欠如等、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感の乏しさ等が懸念されています。
確かな学力の向上を図るため、個に応じた少人数指導の充実による指導方法の工夫改善を図る必要があります。
児童・生徒一人ひとりのニーズに対応するために、支援員の配置等の人的支援を含めた具体的な対応策を講じる必要があります。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業においてICT機器の有効活用を図る必要があります。

対活用を図る必要があります。 社会全体で子どもたちを守り育むため、学校・家庭・地域が協力できる体制 づくりを推進する必要があります。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
学校生活に満足している児童の割合 (%)	成果	ı	92.5	(横ばい)	-	
学校生活に満足している生徒の割合 (%)	成果	•	89.2	(横ばい)	-	

基本事業の成果指標

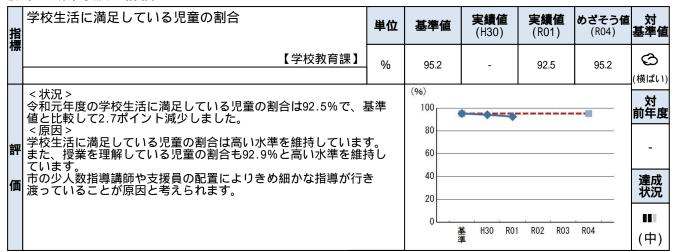
227							
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	学力の向上が見られる児童の割合(%)	成果	-	-		-	
01	学力の向上が見られる生徒の割合(%)	成果	-	-		-	
01	中学校卒業時に英語検定 3級以上を取得している生徒の割合(%)	成果	-	35	(横ばい)	-	
02	生活習慣の改善に努めた生徒の割合(%)	成果	-	28.7	<del>※</del> (向上)	ı	
02	朝食を毎日食べている児童 生徒の割合 (%)	成果		78.5	<b>(横ばい)</b>	ı	
03	不登校児童の割合 (%)	成果	•	0.51	<del>-</del> ★- (横ばい)	ı	
03	不登校生徒の割合 (%)	成果	-	4.2	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
03	道徳性、規律性がある児童 生徒の割合 (%)	成果		93.7	<del>↓</del> (横ばい)	ı	
04	ICT機器の活用により学習意欲に向上が見られた児童の割合(%)	成果		50.5	<b>→</b> (低下)	1	
04	ICT機器の活用により学習意欲に向上が見られた生徒の割合(%)	成果	-	38.1	<b>十</b> (低下)	ı	
04	授業にICT機器を積極的に活用した教職員の割合 (%)	成果		46.9	<b>※</b> (向上)	ı	
05	学校施設 給食施設の不具合による学校生活支障件数 (件)	成果		0	<b>☆</b> (横ばい)	ı	
05	複式学級 (小学校) 及び単学級 (中学校) の出現数 (校)	成果	-	1	<del>-</del> ★- (横ばい)	-	
06	学校教育活動に協力 Uた市民数 (人 )	成果	-	503	<b>介</b> (低下)	-	
06	コミュニティ・スクール導入学校数 (校)	成果	-	2	<del>※</del> (向上)	-	

#### 施策 01 学校教育の充実

#### 施策のプロフィール

ルスペンノロンリール	
施策の対象	施策の意図
・児童 ・生徒	・学校生活に満足している児童生徒が増加します。

#### 施策の成果状況と評価



指標	学校生活に満足している生徒の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
竹	【学校教育課】	%	93.1	-	89.2	95	<b>(</b> 横ばい)
部	一や大雨による臨時休校や停電等の影響があったことも原因の11 考えられます	不 台風	(%) 100 80 60 40 20	基 H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

# 基本事業 01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進 基本事業 02 「健やかな体」の育成 基本事業 03 「豊かな心」を育む 基本事業 04 ICT教育の実践 基本事業 05 教育環境の整備

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

(基本事業 06 地域と学校の協力体制の推進

푴	6中字表() ・惟がら子/川の向上で・冶らに子/川の作店	_					
指 模	学力の向上が見られる児童の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	. 対 基準値
標	【学校教育課】	%	57.5	-	-	60	
		(%)					
部	< 状況 > 新型コロナウィルス感染症予防による臨時休校に伴い県標準学力検査が中止になったため、指標を取得することができませんでした。	80 60 40	<u></u>			-	対 前年度
A	<b></b>	20	基 H3 淮	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況
14	<b>4</b>	٥	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	RO	4

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

13	『今手表』・「唯かる子力」の内工で、行った子力」の作店						
打村	学力の向上が見られる生徒の割合 <b>3</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
材	【学校教育課】	%	54.4	-	-	56	
		(%)					
計	< 状況 > 新型コロナウィルス感染症予防による臨時休校に伴い県標準学力検 査が中止になったため、指標を取得することができませんでした。	40	B			-	対前年度
ſī		20	基 H3 進	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

3	<u> </u>	中学来() 権力をナルリの同工と、石とにナル」の作店						
	指標	中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	剽	【学校教育課】	%	36.1	-	35	50	ග
			(%)					(横ばい)
1	評	<状況> 令和元年度の3級以上の取得率の割合は35.0%で、基準値と比較して1.1ポイント減少しました。 <原因> 市内中学生に英語検定3回中の1回、受験の全額補助と受検対象者	50 40 30	<b>■-</b> 4			-	対 前年度 -
1	画	に英語検定対策講座を年間3回開設していることで、横ばいを維持 しています。	10			e v		達成状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(低)

基本事業05 教育環境の整備

-		_					
<b>才</b> 木	学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
<b>1</b>	【教育総務課】	件	0	-	0	0	*
		(件)					(横ばい)
i	保守・日常点検等の実施により、多くの学校施設や給食センター施 設において改修や修繕の必要性が発生していますが、児童や生徒の						対 前年度 - 成況
	突発的な案件についても迅速かつ適切に対応してきました。		基 H30 準	RO1 RO2	2 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

#### 施策 02 生涯学習の推進

# 施策を取り巻く環境変化と課題

市民の学習ニーズの多様化・高度化が進んでおり、これらのニーズに対応した講座の充実が求められています。
生涯学習施設利用者の高齢化・固定化が進んでいます。新たなニーズを模索し市民誰もが参加しやすい学習・文化事業の展開が必要です。また、各施設については老朽化が進行しており、公共施設等総合管理計画に基づく、施設の適正配置及び維持管理が必要となっています。市内は国が指定する2件の文化財のほか、県12代・市90件の指定文化財があります。これらを周知・活用した学習機会を増やすことで、郷土豊の醸成につなげます。
芸術文化への関心が高まり、活動への新規参加者は増加傾向にあります。一方で、郷土芸能活動をはじめとする伝統文化等の継承・保存は担い手不足等により困難になっています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を契機に、グローバル化が急速に進んでいます。多文化交流・理解力・国際競争力が求められる中、広い視野を持つ人材の育成が必要です。

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
生涯学習に取り組んでいる市民の割合(全般的)(%)	成果		25.7	<b>十</b> (低下)	-	

#### 基本事業の成果指標

4	** <del>***********************************</del>						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市主催の生涯学習講座の年間参加者数 (人)	成果		3,056	) 山子	-	
01	自主クラブ登録数(グル プ)	成果		120	<b>公</b> (横ばい)	-	
02	生涯学習施設の利用者数 (人 )	成果		294,243	(低下)	-	
03	市民が認識している市内文化財数(全13項目)(項目)	成果		9.42	<del>                 </del>	-	
03	文化財を活用した事業・施設への参加者・入館者数(人)	成果	-	4,911	(低下)	-	
04	芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合(%)	成果	-	69.2	<del>                                    </del>	-	
04	市主催の芸術文化事業への参加者数 (人)	成果		5,594	(低下)	-	
04	芸術文化活動 発表等の機会が充足していると思う市民 の割合 (%)	成果		34.3	<b>◆</b> (低下)	1	
05	青少年育成事業 体験学習への児童 生徒参加者数 (人)	成果	-	3,168	<b>◆</b> (低下)	-	
05	海外派遣事業応募者数 (人 )	代替	-	15	<b>十</b> (低下)	-	

#### 施策 02 生涯学習の推進

#### 施策のプロフィール

#### 施策の対象

・市民 (主に学校教育を終了した市民)

#### 施策の意図

・生涯学習の環境が整い、学習の機会が増加することで、市民の学習への取組が活発化し、自己実現が図られます。

#### 施策の成果状況と評価

抖材	生涯学習に取り組んでいる市民の割合(全般的)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
16	【生涯学習課】	. %	30.8	-	25.7	33	<b>介</b> (低下)
部	とが要因と考えます、		(%) 35 30 25 20 15 10 5	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 達成 状況

# 基本事業 01 主体的な学習の推進 基本事業 02 生涯学習施設の利用促進 基本事業 03 文化財の保護・活用 基本事業 04 芸術文化活動の充実 基本事業 05 青少年の育成

#### 基本事業02 生涯学習施設の利用促進

-	=.	中于未♡ 工 <u>任于自地议</u> 以利用促造						
ŧ	旨票	生涯学習施設の利用者数 		基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
<b>1</b>	票	【文化会館】	人	338,515	-	294,243	326,900	4
			(人)					(低下)
i	秤	< 状況 > 令和元年度の生涯学習施設の利用者数は294,243人で、基準値と比較して44,272人減少しました。 <原因 > 施設ごとの特徴を生かし、市民ニーズに対応した学習機会の提供や	300	. 000				対前年度
ſi	曲	学習環境の整備、活動成果を発表する機会の提供に努めることで利	100	000 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業04 芸術文化活動の充実

2	S中事来04 女们人们为07亿天						
<b></b>	芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	」 対 基準値
木	【文化会館】	%	62.3	-	69.2	66	*
		(%)					(向上)
盲	< 状況 > 令和元年度の芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割 合は69.2%で、基準値と比較して6.9ポイント増加し、めざそう値を 運成しています。 < 原因 >	60 -	•	_		-	対前年度
ſ	ワークショップ等の参加型イベントや知名度の高い出演者による	20	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況 (達成)

基本事業05 青少年の育成

=							
指標	青少年育成事業・体験学習への児童・生徒参加者数 	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
葕	【生涯学習課】	人	4,102	-	3,168	3,482	<b>→</b>
		(人)					(低下)
評価	国際的なテロ事件や台風等の気象災害、新型コロナウィルスのまん   延などで、多くの事業が中止となったことが原因と考えられます。	5, 00 4, 00 3, 00 2, 00 1, 00	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

基本事業05 青少年の育成

					_		
才	海外派遣事業応募者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【生涯学習課】	人	28	-	15	35	<b>→</b>
		(人)					(低下)
ŧ	< 状況 > 令和元年度の海外派遣事業への応募者数は15人で、基準値と比較して13人減少しました。	50 40 30 20	1	\		-=	対 前年度 -
1	れデロ事件が発生したことに伴うスリランカへの派遣中止及び、 ニュージーランドへの渡航に対し心配する方が多かった事が原因と 考えます。	10		•			達成状況
		02	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(低)

#### 施策 03 スポーツの振興

# 施策を取り巻く環境変化と課題

高齢化社会の進行により、高齢者の健康意識の高まりによる体力づくりやスポーツ活動への参加が年々増加傾向にあるため、状況に応じたプログラムの整備を行うことで、子どもから高齢者までが、スポーツを継続的に取り組むことができる環境づくり(総合型地域スポーツクラブの設置)各種団体への登録人数が減少している状況を踏まえ、子どもたちの運動機会を増やすため、一般家庭にいながら利用できる公共スポーツ施設予約システムの構築による利便性の向上を図ります。

経年劣化によりを朽化したスポーツ施設の改修整備等を行い、多くの方が気持ちよく利用できる環境づくりを図ります。

施策の環境変化と課題

#### 施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
スポーツ活動に親しむ市民の割合(%)	成果	-	32.4	<del>↓</del> (横ばい)	ı	

#### 基本事業の成果指標

	3 - 214 - 2 1-902   45 H 160						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	スポーツ大会 教室へ参加した市民の割合 (%)	成果	ı	10.1	<b>会</b> (横ばい)	-	
01	スポーツ大会 教室の機会の充足度(%)	成果	•	69	<del>读</del> (向上)	-	
02	スポーツ団体数(総合型地域スポーツクラブを含む)(団体)	成果	-	49	<del>☆</del> (横ばい)	-	
02	体育関係団体の指導者数 (人 )	成果	-	123	<b>介</b> (低下)	-	
03	体育施設の利用者数 (人 )	成果	-	138,482	<b>ら</b> (横ばい)	-	
03	体育施設の修繕件数 (件 )	成果	-	0	<del>-</del> ⊁- (横ばい)	-	

#### 施策 03 スポーツの振興

#### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民	・継続的にスポーツを行うことにより、心身ともに健康な生活を営むことができます。

#### 施策の成果状況と評価

指標	- 1	スポーツ活動に親しむ市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
Ť.	<b>宗</b> -	【スポーツ振興課】	%	27.7	-	32.4	28	<b>☆-</b> (横ばい)
言	¥	<状況> 令和元年度のスポーツ活動に親しむ市民の割合は32.4%で基準化 比較して4.7ポイント増加しめざそう値を達成しました。 <原因> 近年、各世代で健康のため「体力の増進・維持」を目的にスポー 活動に親しむ市民の割合が増加してる状況です。また、65歳以 方は「運動」や「体操」などで体を動かしたり、「脳トレ」をで などの介護予防を行っている方が増加している状況です。	−ツ 上の	(%) 35 30 25 20 15 10 5	H30 R01	R02 R03	R04	対前年度

#### (基本事業 01 スポーツ活動の充実

基本事業 02 体育関係団体・指導者の育成

基本事業 03 体育施設の利用促進

#### 基本事業01 スポーツ活動の充実

2	垦_	<u> 本事業の スルーツ活動の允美</u>					_	
指標		スポーツ大会・教室の機会の充足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	漂	【スポーツ振興課】	%	63.7	-	69	66.2	*
			(%)					(向上)
	評	<状況> 令和元年度のスポーツ大会・教室の充足度は69.0%で、基準値と比 較して5.3ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 各スポーツ大会や教室を実施後に、アンケート調査を行い、その結	80 60 40	4				対 前年度 -
1	価	果を検討し、より参加者が興味を持つ大会運営や教室実施に努め、	20					達成状況
			ا ه	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

基本事業02 体育関係団体・指導者の育成

- 3	Ë	TTXV2 FFIXIVEF 114FIVFIX						
	指標	スポーツ団体数(総合型地域スポーツクラブを含む)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	剽	【スポーツ振興課】	団体	49	-	49	50	*
			(団体)					(横ばい)
ī	評	<状況> 令和元年度のスポーツ団体数(総合型地域スポーツクラブを含む) は49団体で、基準値を維持しています。 <原因> 平成30年度と比較すると、少年スポーツクラブ連合会に加盟するク	50 40 30	<b>*</b> *	-		-	対前年度
1	面	ラブが1クラブ減少しました。少子化による児童・生徒の減少は続いているため、少年スポーツクラブを取り巻く環境は依然として厳しい状況です。	10	基 H3	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況
				基 H3 準	0 1101 11	02 1100		(中)

基本事業02 体育関係団体・指導者の育成

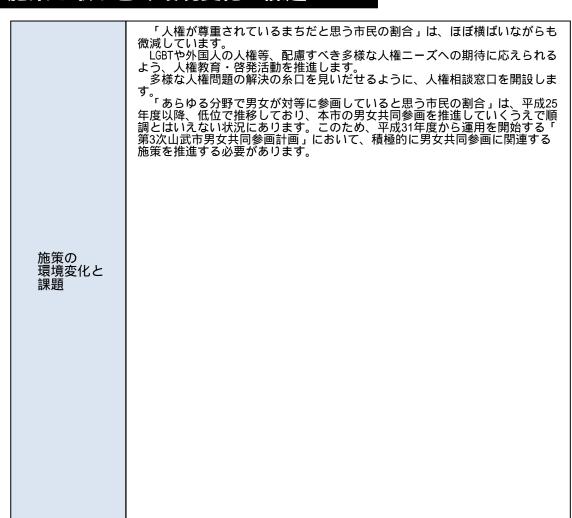
指標	体育関係団体の指導者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
標	【スポーツ振興課】	人	133	-	123	135	<b>→</b>
		(人)	-	-	-	-	(低下)
	<状況>   令和元年度の体育関係団体の指導者数は123人で、基準値と比較し	140 120	*	<b></b>		•	対 前年度
評	┃て10人減少しました。 ┃<原因>	100 80					-
	│団体数では1団体減少したが、スポーツクラブに登録している子供 │の保護者が資格を取り、指導者として登録していることが、指導者	60 40					達成状況
価	数を維持している要因です。	20					状況
		οL	基H	30 R01 R	R02 R03	R04	【低)
価	の保護者が資格を取り、指導者として登録していることが、指導者   数を維持している要因です。 	200	基出準	30 R01 R	R02 R03	R04	

基本事業03 体育施設の利用促進

-	デーチ来 ^い	_					
抖材	体育施設の利用者数 <b>重</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	【スポーツ振興課】	人	144,471	-	138,482	148,122	ය
		(人)					(横ばい)
i	< 状況 > 令和元年度の体育施設の利用者数は138,482人で、基準値と比較して5,989人減少しました。 < 原因 > 令和元年度は、施設の老朽化による改修工事や台風災害及びコロナ	150,	000				対前年度
ſ	ウィルス感染症拡大防止策の影響により利用者が減少しました。今	50,	. 000				達成 状況
	す。		0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	<b>III</b> (中)

#### 施策 04 人権尊重のまちづくり

# 施策を取り巻く環境変化と課題



#### 施策の成果指標

100714 47 1-207143 H 120						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
人権が尊重されているまちだと思う市民の割合(%)	成果	ı	58.5	<b>※</b> (向上)	ı	
あらゆる分野で男女が対等に参画していると思う市民の割合(%)	成果	-	24.6	<b>☆</b> (横ばい)	-	

## 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	この1年間に人権について学んだことのある市民の割合 (%)	成果	ı	23.3	<b>会</b> (横ばい)	ı	
01	この1年間に人権侵害をするような言動や行動をした市民 の割合 (%)	成果		9.3	<del>↓</del> (横ばい)	-	
02	人権侵害に対する措置件数(件)	代替		886	<b>十</b> (低下)	-	
03	審議会などに女性委員が登用されている割合 (%)	成果		22.1	(横ばい)	-	
03	男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方ではない 人の割合 (%)	成果	-	77.7	<b>→</b> (横ばい)	-	
03	男性が家事・育児に積極的に参加している割合 (%)	成果	-	39.2	(横ばい)	-	

### 施策 04 人権尊重のまちづくり

#### 施策のプロフィール

ルスペンノロノイール	
施策の対象	施策の意図
・市民	・誰もが基本的人権が守られる地域社会になります。 ・男女の不公平感が解消され、女性の社会進出の促進が図られます。

#### 施策の成果状況と評価

抖材	人権が尊重されているまちだと思う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
竹	【市民課】	%	45.7	-	58.5	48	<b>☆</b> (向上)
計	高まるとともに、各種人権に対するニーズも多様化したものと	を達	(%) 60 40 20	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 達成 状況 (達成)

1		あらゆる分野で男女が対等に参画していると思う市民の 側合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	示	【企画政策課】	%	21.8	-	24.6	25	<b>-≱</b> - (横ばい)
	**の < フッ 差る	< 状況 > 令和元年度のあらゆる分野で男女が対等に参画していると思うで 別割合は24.6%で、基準値を2.8ポイント増加しました。 < 原因 > アンケートでは、70歳以上では30%を超えますが、他の年代でし % 前半を推移しています。男女別では男性30.9%、女性19.5%。 差があり認識に相違がみられます。前年度より指標値が向上して ることからも男女共同参画への理解と取り組みが進んできている のと考えます。	は20 と大 てい	(%) 30 25 20 15 10 5	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### (基本事業 01 人権教育・人権啓発の推進

# 基本事業 02 人権擁護の推進

## 基本事業 03 男女共同参画の推進

#### 基本事業01 人権教育・人権啓発の推進

- 2			_					
1	旨票	この1年間に人権侵害をするような言動や行動をした市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	票	【市民課】	%	10.5	-	9.3	10.5	*
			(%)					(横ばい)
		<状況> 令和元年度のこの1年間に人権侵害をするような言動や行動をした 市民の割合は9.3%で、基準値と比較して1.2ポイント減少し、後期 めざそう値を達成しています。 <原因>	12 10 8 6					対前年度
1	画	アンケートの回答では、「ある」と回答した人は年齢別では30歳代で特に顕著で、職業別では会社員・公務員層に多い傾向です。このような結果から、引き続き職場を中心に人権啓発を図る必要があると考えます。	2 0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況 (達成)

基本事業03 男女共同参画の推進

3	Ŧ.	<b>や手耒</b> 03 万女共内参回の推進						
	指漂	審議会などに女性委員が登用されている割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	漂	【企画政策課】	%	23.5	-	22.1	33.3	ග
			(%)					(横ばい)
1	評	< 状況 > 令和元年度の審議会などに女性委員が登用されている割合は22.1%で、基準値と比較して1.4ポイント減少しました。<	35 30 25 20 15	*			•	対 前年度 -
1	西	です。減少の主な要因は、審議会の減少に伴い女性委員7人が減少 したことよるものです。引き続き、積極的な女性委員の登用に向け て、第3次男女共同参画計画や山武市審議会等委員への女性登用推 進方針を基に全庁的に取り組みます。	10 - 5 - 0	基 H3·	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況 ■ (低)

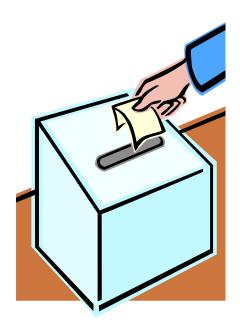
基本事業03 男女共同参画の推進

콛	Æ,	<b>华争耒(3) 万头共内参回以往进</b>						
4	指漂	「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方ではない人の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	」 基準値
1	票	【企画政策課】	%	73.3	-	77.7	75	*
			(%)					(横ばい)
	評	<状況> 令和元年度の「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方では ない人の割合は77.7%で、基準値と比較して4.4ポイント増加し、 めざそう値を達成しています。 <原因>	80 60 40	*				対前年度
1	西	アンケートの割合では、全ての年代で70%を超えており、10代の9 1.3%をはじめ若年層で高水準を推移しています。男女別では、男 性74.1%、女性81.0%でそれぞれ昨年度の数値を向上しています。 これらのことから、男女ともに性別的役割意識の解消が進んでいる と思われます。	20	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成状況 (達成)

基本事業03 男女共同参画の推進

_	=-							
才木	旨	男性が家事・育児に積極的に参加している割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
Ť	票	【企画政策課】	%	40.1	-	39.2	45	ග
			(%)					(横ばい)
盲		< 状況 > 令和元年度の男性が家事・育児に積極的に参加している割合は 39.2%で、基準値と比較して0.9ポイント減少しました。 <原因 > アンケートの割合では、男性が43.8%、女性が35.5%で男女間での	50 40 30 20	<b>+</b>			-	対 前年度 -
ſ		家事・育児に対する認識の相違が見受けられます。男性が家事・育 児に積極的に参加していくには、男性の意識の醸成、家庭内での意 思疎通や職場等の周囲の環境整備が進んでいくことが必要と考えま す。	10	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■■ (中)





# 【政 策】

6 市民と行政が協働してつくるまちづくり

## 【施 策】

- 6-1 協働と交流によるまちづくり
- 6-2 開かれた市政とまちの魅力発信
- 6-3 計画的・効率的な行財政運営
- 6-4 公正確実な事務の執行

#### 施策 協働と交流によるまちづくり 01

# 施策を取り巻く環境変化と課題

多様化する市民ニーズに対応したきめ細かいサービスの提供を行政が担う時代から支えあいと活気のある住民主体の協働による共助社会へと移行しつつあります。地域まちづくり協議会等を通じて、各種団体等が交流し、自らが課題解決をするまちづくりを推進します。 前総合計画期間における「市民活動(地域活動)に参加している市民の割合」、「NPO・ボランティア活動をしている市民割合」は、ほぼ横ばいで推移してきました。更なる市民活動の活性化を図るため、条例の整備や市民活動中間支援センター設置等、まちづくりを推進していくための環境整備に努めます。

ッ。 近年、山武市においても外国人が増加していることから、在住外国人と地域 の人々が、共に理解し、暮らしていけるまちづくりが必要です。 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるスリランカのホス トタウンとして、オールさんむで大会の成功に協力するとともに、その開催効 果を市の発展につなげます。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

10214 - 1-102143 H 100						
成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
市民活動 (地域活動 )に参加している市民の割合 (% )	成果	ı	36.5	<b>卡</b> 低下)	ı	
NPO ボランティア活動をしている市民割合 (% )	成果	•	17	<b>(</b> 横ばい)	-	

## 基本事業の成果指標

	-3-2K-27-702K3H 100						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	区会、自治会加入率 (%)	成果	ı	71.9	<b>会</b> (横ばい)	ı	
02	市民活動に意欲的な市民割合 (%)	成果	-	40.9	<b>ら</b> (横ばい)	-	
02	市の支援が役立っていると思う市民活動実践者割合(%)	成果	-	93.6	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	市民活動支援施設の利用者数 (人 )	代替	-	54,093	<del>※</del> (向上)	-	
03	活動場所に困っている市民活動団体の割合(%)	成果	-	17.8	<del>※</del> (向上)	-	
04	多文化共生社会への行政 市民団体の取組数(オリパラ 関連除く)(件)	成果	-	9	<del>-</del> ⊁- (横ばい)	-	
05	東京オリンピック・パラリンピック関連の事業実施数 (事業)	成果	-	20	(横ばい)	-	

#### 市民と行政が協働してつくるまちづくり 政策 06

#### 施策 協働と交流によるまちづくり 01

#### 施策のプロフィール

#### 施策の対象

- ・市民 ・NPO法人 ・市民活動団体 ・職員

#### 施策の意図

・まちづくりや公共について、市民と行政が共に考え、共に実践していく市民活動が活発に行われています。

#### 施策の成果状況と評価

ŧ	旨票	市民活動(地域活動)に参加している市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	景	【市民自治支援課】	41.7	-	36.5	42	<b>今</b> (低下)	
	評面	< 状況 > 令和元年度の市民活動(地域活動)に参加している市民の割合16.5%で、基準値と比較して5.2ポイント減少しました。 < 原因 > 交流センターなど市民活動を行う拠点が各地域に整備されており一定の市民活動団体は、各拠点等を中心に活発な活動を展開しますが、多くの地域住民がこれに関心を持つ、又は参加していての段階には至っていないと思われます。市民活動の意義と地境に対するその必要性を認識した上で行動に繋げていく必要がでます。	)、 てい < ≢	(%) 50 40 30 20 10	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

才	NPO・ボランティア活動をしている市民割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値		
T	【市民自治支援課】	%	19	-	17	20	<b>ら</b> (横ばい)		
i	< 状況 > 令和元年度のNPO・ボランティア活動をしている市民割合は17.0 %で、基準値と比較して2.0ポイント減少しました。 < 原因 > 基準値との比較は減少しているものの、昨年度との比較としては、1.3ポイントの増加となっています。昨年度発生した気象災害等により、各地のボランティア活動が活発化したことが原因と思われま								
ſ	■す ボランティア活動を行う方々に対する市の支援は 租時占っ	では	5 0 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)		

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### 基本事業 01 区・自治会活動の活性化

基本事業 02 市民活動の活性化

(基本事業 03 市民活動施設の利用促進

基本事業 04 多文化共生社会の推進

**基本事業** 05 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進

基本事業02 市民活動の活性化

_=	=,	T-7-X						
į	旨票	市民活動に意欲的な市民割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	重 対 基準値
1	景	【市民自治支援課】	%	45.4	-	40.9	48	ය
			(%)					(横ばい)
į		< 状況 > 令和元年度の市民活動に意欲的な市民割合は40.9%で、基準値と比較して4.5ポイント減少しました。 <原因 > 基準値との比較は減少しているものの、昨年度との比較では、1.5	50 40 30	•			-	対 前年度
1	西	要学問との比較は減少しているものの、所生度との比較になっています。近年の気象災害、また、オリパラの開幕を控え、ボランティア等の市民活動に対する関心度が徐々に高まりつつあると思われます。特にボランティアに関しては、ボランティア市民活動センターと連携し、情報の公開に努めていきます。	10	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業03 市民活動施設の利用促進

- 3	-							
	指標	市民活動支援施設の利用者数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ľ	標	【市民自治支援課】	人	44,066	-	54,093	45,000	*
ı			(人)					(向上)
	評	<状況> 市民活動施設の利用者数は54,093人で、基準値と比較して10,027人 増加し、めざそう値を達成しています。 <原因> 各交流センターが設置され、その認知度が上がったことによるもの	60, 0 40, 0		1		-=	対前年度
	価	と思われます。特に、蓮沼交流センターは、6,818人の増加、あららぎ館は、3,734人の増加となりました。各地域の市民活動の拠点が完成したことで、今後の更なる活用が期待されます。	20, 0	000 基準	H30 R01	R02 R03	R04	達成状況 (達成)

基本事業04 多文化共生社会の推進

指	多文化共生社会への行政・市民団体の取組数(オリパラ関連除く)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
指標	【市民自治支援課】	件	9	-	9	9	*
評価	庁内各課及びSGCにより、隔年の事業等を除き、毎年継続して実   施されていることからほぼ同数で推移しています。オリンピック・	12 10 8 6 4 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	基 H3 進	0 R01 R	02 R03		(横ばい) 対年度 - 達状 (達成)

基本事業05 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進

	指票	東京オリンピック・パラリンピック関連の事業実施数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
7	漂	【東京オリンピック・パラリンピック戦略推進室】	事業	21	-	20	20(H32)	ග
			(事業)					(横ばい)
	評	<状況> 令和元年度の東京オリンピック・パラリンピック関連事業の実施数 は20事業で、基準値と比較して1事業減少しましたが、めざそう値 を達成しています。 <原因>	25 20 15 10					対 前年度 -
1	西	東京2020大会開催までの期間に見合った事業について、毎年度アクションプランを策定し、計画的に事業を実施する事で目標を達成しています。	5_0					達成状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>==</b> (達成)

#### 施策 開かれた市政とまちの魅力発信 02

## 施策を取り巻く環境変化と課題

株式会社ブランド総合研究所の地域ブランド調査によれば、山武市の認知度は1,000団体中919位(平成30年度現在)となっています。首都圏に位置し、成田国際空港に近接している立地メリットや、魅力ある地域資源のポテンシャルを発揮するため、市外から「山武市」を知ってもらえる集中的な情報発信体制を構築し、市の魅力を積極的に発信していきます。 広報紙や議会だよりの創意工夫に加え、新聞離れやインターネットメディアの普及等から、SNSを活用しながら、市政情報の伝達手段の多様化に取り組

みます。
「市長への手紙」等の仕組みを通じて、市民と行政とが情報共有することにより相互理解を深めます。
【CTを活用した議会中継配信(平成28年9月運用開始)の周知等を通じ、

議会への関心を高めていきます。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
市政情報の提供の満足度 (%)	成果	-	82.7	<b>会</b> (横ばい)	ı	
多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合(%)	成果	-	63.4	<b>→☆</b> (横ばい)	-	
山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合 (%)	成果	-	24.9	<del>※</del> (向上)	-	

## 基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	広報紙を読んでいる市民の割合(%)	成果	ı	85	(横ばい)	ı	
01	広報紙が分かりやすいと思う市民の割合(%)	成果	,	86.5	<b>(横ばい)</b>	-	
01	市ホームページアクセス件数 (アクセス)	成果	,	827,353	<del>※</del> (向上)	-	
01	まちの魅力の各種メディア掲載件数(件)	成果		289		-	
02	市民の声が市政に届いていると思う市民の割合(%)	成果	-	26.7	<b>ら</b> (横ばい)	-	
03	議会だよりを読んでいる市民の割合(%)	成果	-	41.6	(低下)	-	
03	傍聴人数 (人 )	成果	-	84	<b>小</b> (低下)	-	
03	議会インターネット中継アクセス件数(件)	成果	-	1,394	<b>十</b> (低下)	-	

### 施策 02 開かれた市政とまちの魅力発信

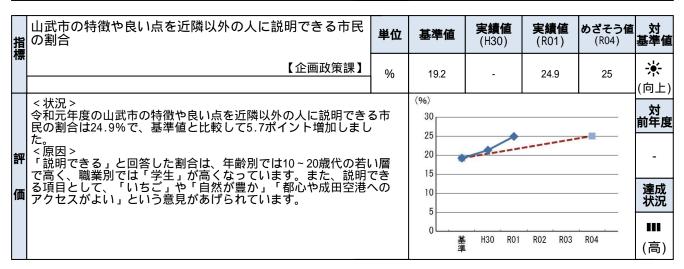
#### 施策のプロフィール

#### 

#### 施策の成果状況と評価

指標	市政情報の提供の満足度	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
行	【企画政策課】	%	84.1	-	82.7	85	(横ばい)
評価	< 状況 > 令和元年度の市政情報の提供の満足度は82.7%で、基準値と比較で1.4ポイント減少しました。 < 原因 > ホームページのアクセス件数は増加しましたが、広報紙や議会がりを読んでいる市民の割合が前年度より低下したことが、指標低低下原因と考えられます。		(%) 100 80 60 40 20	₩ H30 R01	R02 R03	<b>R</b> 04	対 前年度 - 達成 状況

1	多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う 市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	【総務課】	%	60.2	-	63.4	65	<b>-☆</b> - (横ばい)
	< 状況 > 令和元年度の多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっているとう市民の割合は63.4%で、基準値と比較して3.2ポイント増加しした。 < 原因 > 年齢別では10~20歳代の若い世代で満足している割合が高く、即のでは「学生」が高くなっていることから、市ホームページなどインターネットを活用した仕組みづくりが全世代には浸透していまのと思われます。	ま 戦業 ご、	(%) 80 60 40 20 0	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 達成 状況 ■■ (中)



見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

#### (基本事業 01 情報発信力の充実

基本事業 02 広聴の充実

(基本事業 03 議会情報の公開の推進

#### 基本事業01 情報発信力の充実

2	54字来()						
打村	広報紙を読んでいる市民の割合 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	. 対 基準値
不	【市民自治支援課】	%	88.1	-	85	90	ග
		(%)					(横ばい)
音	< 状況 > 令和元年度の成果指標は85%で、基準値と比較して3.1ポイント減 少しました。 Y <原因 > 市民編集委員と協働し、市民目線で市民生活に密着した情報や特集	100 80 60	<b></b>				
ſĩ	記事の掲載、台風被害に関する支援等をお知らせするため号外を発	20 0	基 準	30 R01 F	R02 R03	R04	達成 状況 ■ (低)

基本事業01 情報発信力の充実

1	¥	中字条() 情報元百分の元夫						
	指標	まちの魅力の各種メディア掲載件数	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
	標	【総務課】	件	195	-	289	215	
ı			(件)					]
	評	< 状況 > 令和元年度のまちの魅力の各種メディア掲載件数は289件で、基準値と比較して94件増加し、めざそう値を達成しています。 < 原因 > 台風関連及び東京オリンピック・パラリンピック関連の記事で全体	300 250 200 150				•	対 前年度 -
	価	の29%を占めており、その他様々な取り組みが記事として取り上げられました。	100 50					達成 状況
l				基 H:	30 R01 F	02 R03	R04	<b>■</b> (達成)

基本事業02 広聴の充実

3	<b>E</b>							
	指標	市民の声が市政に届いていると思う市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ľ	票	【総務課】	%	26.8	-	26.7	33	ග
			(%)					(横ばい)
1	評	< 状況 > 令和元年度の市民の声が市政に届いていると思う市民の割合は26.7 %であり、基準値と比較して0.1ポイント減少しました。 < 原因 > 30歳代においては17.9%と顕著に低い数値であり、10歳代、50歳代	35 30 25 20 15	<b>*</b>			-	対 前年度 -
1	画	及び70歳以上においてはめざそう値を上回っている状況です。	10 5 0					達成状況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(中)

基本事業03 議会情報の公開の推進

- 2		<del>ドチ末○○                                   </del>	_					
1	指標	議会だよりを読んでいる市民の割合	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	票	【議会事務局】	%	45.7	-	41.6	47	<b>→</b>
			(%)					(低下)
		< 状況 > 令和元年度の議会だよりを読んでいる市民の割合は41.6%で、基準値と比較して4.1ポイント減少しました。< <原因 >	50 40 30 20 10				-	対 前年度 - 達成況
				基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(低)

#### 施策 計画的・効率的な行財政運営 03

## 施策を取り巻く環境変化と課題

権限移譲や人口減少等の影響から職員一人ひとりの事務量増加が見込まれる中、行政評価の仕組みを活用することで、費用対効果の高い事業への資源配分を推進し、結果重視の行政経営を一層推進する必要があります。年金の支給開始年齢の段階的引き上げによる再任用の原則義務化、地方公務員法の改正による人事評価結果の処遇反映の義務化や会計年度任用職員制度の導入等に対応した、組織運営が必要です。2021年度から普通交付税の合併算定替期間が終了することに伴い、歳入歳出のバランスの適正化を推進する必要があります。人口減少社会を踏まえた公共施設等総合管理計画(平成28年度)の方針に基づき、具体的な公共施設の見直し案となる個別施設計画の策定を2020年度までに行い、公共施設の適正化を推進します。

施策の 環境変化と 課題

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対	対	掲載
八木伯宗石	6万	□30天浪	KUI美粮	基準値	前年度	旬果
施策の目標達成率 (%)	成果	•	35	<b>※</b> (向上)	-	

#### 基本事業の成果指標

李4	4. 争某以以朱指惊						
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	基本事業の目標達成率 (%)	成果	ı	35.7	<b>☆</b> (横ばい)	-	
01	PDCAサイクルを意識している職員の割合 (%)	成果	,	54.3	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
02	部署内外の連携が十分に図られていると感じる職員の割合 (%)	成果	-	69.3	<b>ら</b> (横ばい)	-	
02	能力が十分発揮され実績が評価されていると思う職員の割合(%)	成果	-	77.9	<b>ら</b> (横ばい)	-	
02	研修により資質の向上が図られていると思う職員の割合(%)	成果	-	92.8	<b>ら</b> (横ばい)	-	
03	経常収支比率 (%)	成果	-	92.6	<b>ら</b> (横ばい)	-	
03	実質公債費比率 (%)	成果	-	8.7	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
03	経常経費に占める一般財源の割合(%)	成果	-	78.58	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
04	市税収納率 (%)	成果	-	97.58	<b>-</b> ≱- (横ばい)	-	
05	市保有の土地活用率 (%)	成果	-	45.5	<b>ら</b> (横ばい)	-	
05	公共施設維持管理費 (万円)	成果	-	143,715	<del>学</del> (向上)	-	
06	市の IC Tサービスを利用している市民割合 (%)	成果	-	41.5	<b>学</b> (向上)	-	
06	主要情報システムの予期せぬ停止時間 (年間)(時間)	成果	-	0	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	

## 施策 03 計画的・効率的な行財政運営

### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・行政・市民	・計画的・効率的・効果的な行財政運営が行われています。

#### 施策の成果状況と評価

指標	施策の目標達成率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
閍	【企画政策課】	%	29.1	-	35	60	<b>☆</b> (向上)
評価	いるものと考えます。		(%) 80 60 40 20 0	H30 R01	R02 R03	R04	対 前年度 - 達成 状況

#### 基本事業 01 行政経営の推進

基本事業 02 人材育成と効率的な組織運営

(基本事業 03 健全な財政運営

基本事業 04 税収の確保

(基本事業 05 公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進

基本事業 06 情報化の推進と適正管理

基本事業01 行政経営の推進

<u> </u>	李_	平事果○ 1」以経呂の推進	_					
4	指標	基本事業の目標達成率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
1	宗	【企画政策課】	%	35.6	-	35.7	70	*
			(%)					(横ばい)
		< 状況 > 令和元年度の基本事業の目標達成率は35.7%で、基準値と比較して 0.1ポイント増加しました。	80 60					対 前年度
į	評	<原因> 第2次総合計画の1年目の評価ですが、前計画から継続している指	40	*				- -
1	画	標もあり、これまでの各事務事業の取組により、指標値が向上して いるものと考えます。	20					達成状況
			0	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	(中)

基本事業03 健全な財政運営

才木	経常収支比率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
Ť	【財政課】	%	91	-	92.6	90	ය
		(%)					(横ばい)
i	< 状況 > 令和元年度の経常収支比率は92.6%で、基準値と比較して1.6ポイント増加しました。	100 80 60 40				-	対前年度
ſ	出される扶助費等は増加傾向にあり、経常収支比率は増加傾向にあります。	20			a a		達成状況
			基 H:	30 R01 R	02 R03	R04	(中)

基本事業04 税収の確保

指榜	市税収納率	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
樗	【収税課】	%	97.48	-	97.58	98.53	*
		(%)					(横ばい)
	<状況>令和元年度の市税収納率は97.58%で、基準値と比較して 0.1ポイント増加しました。	100 80	•—			-	対 前年度
闬	┃<原因> ┃ 市県民税の特別徴収の増加、納付環境拡大の周知(口座振替の推 ┃進)、文書催告の強化及び分割納付者への履行監視に努めたことに	60					-
個	よるものと考えられます。	40 20					達成 状況
		٥	基 HX 準	80 R01 R	102 R03	R04	(中)

基本事業05 公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進

	公共施設維持管理費	単位	基準値	実績値		めざそう値	対基準値
抖材		一世	<b>空</b> 十吨	(H30)	(R01)	(R04)	基準値
T)	【財政課】	万円	192,225		143,715	192,000	*
		(万円)					(向上)
	<状況> 令和元年度の公共施設維持管理費は143,715万円で、基準値と比較	200,		<b>X</b>			対 前年度
言	して48,510万円減少しました。	150,	, 000	*			_
A	基礎データの見直しを行い、公共施設維持管理費から公共施設の運	100,	, 000				
ſī	営に係る費用(施設型給付費・私立幼稚園等に対する補助)を除い 加たことにより大幅な減少となりました。実質の公共施設維持管理費	50.	. 000				達成 状況
"	「たことにより大幅な減少となりました。実質の公共施設維持管理費 については、前年度と比較してほぼ横ばいとなります。		٥				
			基準	H30 R01	R02 R03	R04	(中)

#### 施策 04 公正確実な事務の執行

# 施策を取り巻く環境変化と課題

地方自治体の業務が多様化、高度化する一方で、引き続き、市民に対して不安や誤解を与えない正確な事務執行と会計処理を行っていく必要があります。このため、職員誰もが公正で確実な行政サービスを提供できるよう取り組みます。選挙権が18歳以上に引き下げられましたが、依然として投票率の向上が見られないことから、若い世代を中心に選挙に関心を持ってもらうための啓発活動を行い、併せて選挙事務の効率化に取り組みます。

施策の成果指標

成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
公正確実な事務の執行の満足度 (%)	成果	-	74.1	<b>介</b> (低下)	-	

## 基本事業の成果指標

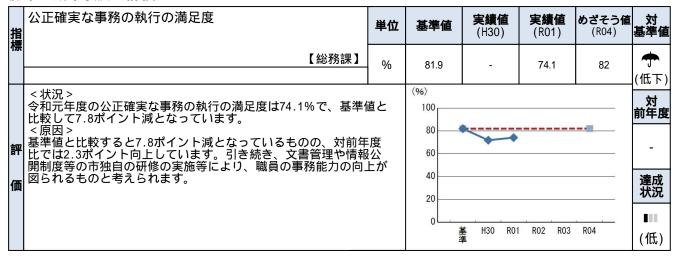
No.	成果指標名	区分	H30実績	R01実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	口座振替支払期日における支払不能件数 (件)	成果	ı	29	<b>学</b> (向上)	ı	
02	市政投票率 (市長)(%)	成果	,	,		-	
02	市政投票率 (市議)(%)	成果	,	55.6		-	
03	監査による指摘事項などの措置率 (%)	成果		100	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
04	不服申立による変更件数(件)	成果	1	0	<b>☆</b> (横ばい)	1	
04	個人情報の漏洩件数 (件 )	成果		0	<del>-</del> ≱ <del>-</del> (横ばい)	-	
05	窓口サービスの満足度 (%)	成果	-	82	<b>(横ばい)</b>	-	_
06	不服申立等により課税誤りになった件数(件)	成果	-	0	★ (横ばい)	-	

### 施策 04 公正確実な事務の執行

#### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民・職員	・職員のだれもが、公正で確実な行政サービスを提供できます。

#### 施策の成果状況と評価



#### (基本事業 01 適正な会計処理

基本事業 02 積極的な選挙啓発

(基本事業 03 監査の充実

基本事業 04 情報公開及び個人情報保護の推進

基本事業 05 窓口サービスの向上

(基本事業 06 公平・公正な課税

#### 基本事業01 適正な会計処理

-	er-f-xol berseinez	_					
<b></b>	口座振替支払期日における支払不能件数 <b>1</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
木	【会計課】	件	48	-	29	43	*
		(件)					(向上)
i	〈状況〉 令和元年度の口座振替支払期日における支払不能件数は29件で、基準値と比較して19件減少し、めざそう値を達成しています。 ▼ 〈原因〉 債権者登録内容、振込依頼データを複数の職員が確認しています。	50 40 30 20	30				対 前年度 -
ſ	振込不能返却報告書が随時ファックス連絡されるようになったこと	10					達成状況
			基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<del>  </del> (達成)

基本事業02 積極的な選挙啓発

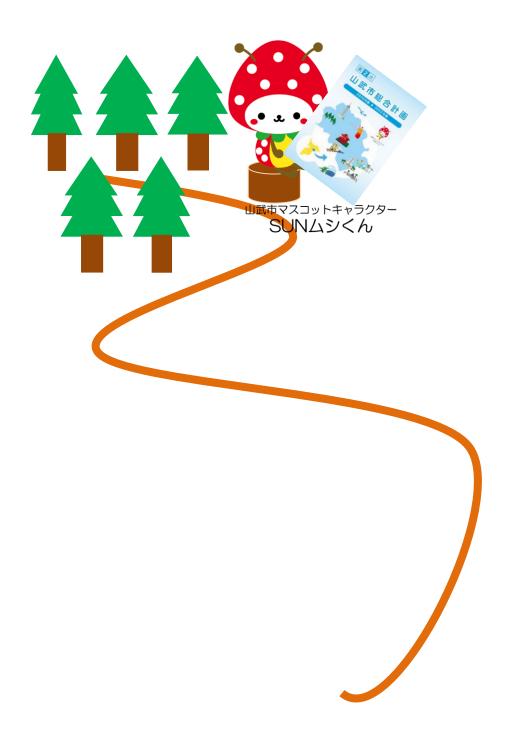
- 3	Ŧ.,							
	指標	市政投票率(市議)	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
ľ	標	【選挙管理委員会事務局】	%	-	-	55.6	55	
			(%)					
	評	<状況> 令和元年度の市政投票率(市議)は55.6%で、めざそう値を達成しました。 <原因> 平成31年4月21日執行の山武市議会議員選挙で、定数20に対して29	40		•		•	対前年度
	価	名の方が立候補したことにより、市民(有権者)の関心が高まった	20					達成状況
			0 -	基 H3 準	0 R01 R	02 R03	R04	<b>≟</b> (達成)

基本事業04 情報公開及び個人情報保護の推進

=							
指模	個人情報の漏洩件数   	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
模	【総務課】	件	0	-	0	0	*
		(件)					(横ばい)
音	< 状況 > 令和元年度の個人情報漏洩軒数はゼロ件で、めざそう値を達成しました。						対 前年度 -
個	考えられます。						達成 状況
		L.	基 H30 準	RO1 RO2	R03	RO4	<b>≟</b> (達成)

基本事業05 窓口サービスの向上

=	<del>イチ未い 心口 CAVIII</del>	_					
抖材	窓口サービスの満足度   <b>[</b>	単位	基準値	<b>実績値</b> (H30)	<b>実績値</b> (R01)	<b>めざそう値</b> (R04)	対 基準値
村	【市民課】	%	82.4	-	82	84	ග
		(%)					(横ばい)
計	窓口の開設、マイナンバ・カ・ド等を利用したコンビニ交付の実	100 80 60	•			-	対前年度
価	施、窓口混雑時緩和等を目的とした窓口番号案内システムを導入 し、窓口サ・ビスの向上に努めていますが、市役所の窓口によって 満足度にばらつきがあることが考えられます。	20					達成状況
			基 H: 準	30 R01 R	02 R03	R04	(中)



山武市まちづくり報告書 令和2年11月 発行/山武市

編集/総務部企画政策課 〒289-1392 千葉県山武市殿台 296 番地

Tel: 0475-80-1132